

令和8年度開設授業科目及び授業担当教員一覧(修士課程)

科目	領域	授業科目	R8年度担当教員(案名)	単位数			ナンバリングコード	備考	
				必修	選択	選択			
共通	共通	スポーツ科学リテラシー特講	各領域から2名程度	2			211A0-1100		
		スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	各領域から2名程度	2			211A0-2101		
		スポーツ科学セミナー	研究科教務委員会委員長	1			211A0-3102		
		学会発表	研究科指導担当教員		1		211A0-2104		
		キャリアデザイン演習	研究科教務委員会		1		221A0-2105		
		コープ特講演習・実習	研究科教務委員会・椿・金高・東山	2~4			221A0-3106		
		スポーツ科学英語特講	エルメス・石原・国重			2	221A0-1107		
		身体教育特講 I	連携大学院担当教員等			2	233A0-1108		
		身体教育特講演習 I	連携大学院担当教員等			2	233B0-1107		
		コーチング学特講	金高・小森・永原・山下			2	221A1-1300		
基礎科目	スポーツ生命科学	武道指導論特講	前阪・小澤			2	221A1-1301		
		武道論特講	前阪			2	221A1-1302		
		スポーツパフォーマンス学特講	高橋・金高・竹中・藤井(温)・山口・前田			2	221A1-1303		
		ヘルスサイエンス特講	中塚内・沼尾・古瀬			2	222A2-1300		
		スポーツ医学特講	藤井(康)・樋口・廣津			2	222A2-1301		
		スポーツ生理学特講	田巻・堀内・興谷			2	222A2-1302		
		トレーニング科学特講	高井・赤澤			2	222A2-1303		
		スポーツバイオメカニクス特講	宮崎			2	222A2-1304		
		スポーツ生化学特講	吉田			2	222A2-1305		
		スポーツ栄養学特講	石澤			2	222A2-1306		
	身体教育特講II A	[井福]・[坂本]			2	222A2-1307			
	身体教育特講II B	[塩瀬]			2	222A2-1308			
	スポーツ人文	中村(真)・[山田]・[森(亮)]			2	223A3-1300			
	スポーツ社会科学	北村・坂口・日下・開野・横田・[関]			2	223A3-1301			
	スポーツ心理学特講	森・中本・幾留			2	223A3-1302			
	スポーツ教育学特講	椿			2	223A3-1303			
	スポーツ情報学特講	和田			2	223A3-1304			
	専門	スポーツ・武道実務科学	コーチング学特講演習(陸上競技(トラック))	永原・吉塚			2	224B1-2300	
			コーチング学特講演習(陸上競技(フィールド))	小森			2	224B1-2301	
			コーチング学特講演習(水泳)	萬久・成田			2	224B1-2302	
			コーチング学特講演習(体操競技)	山下・中谷			2	224B1-2303	
			コーチング学特講演習(サッカー)	塩川・村川			2	224B1-2304	
			コーチング学特講演習(バスケットボール)	三浦			2	224B1-2305	
			コーチング学特講演習(テニス)	高橋・村上			2	224B1-2306	
			コーチング学特講演習(バレーボール)	濱田(幸)・坂中			2	224B1-2307	
			コーチング学特講演習(海洋スポーツ)	中村(真)・栗樂・笹子			2	224B1-2308	
			コーチング学特講演習(自転車)	山口			2	224B1-2309	
		コーチング学特講演習(野球)	藤井(雅)			2	224B1-2310		
武道指導論特講演習(剣道)		前阪・竹中			2	224B1-2311			
武道指導論特講演習(柔道)		小澤・小崎			2	224B1-2312			
武道論特講演習		前阪			2	224B1-2313			
スポーツパフォーマンス学特講演習		高橋・金高・竹中・藤井(温)・山口・前田			2	224B1-2314			
応用科目		スポーツ生命科学	ヘルスサイエンス特講演習	中塚内・沼尾			2	225B2-2300	
			スポーツ医学特講演習	藤井(康)・樋口・廣津			2	225B2-2301	
			公衆衛生学特講演習	古瀬			2	225B2-2302	
			運動処方論特講演習	藤田			2	225B2-2303	
			トレーニング科学特講演習	高井・赤澤			2	225B2-2304	
	スポーツ生理学特講演習		堀内			2	225B2-2305		
	身体科学論特講演習(生体ダイナミクス)		田巻			2	225B2-2306		
	身体科学論特講演習(身体機能論)		興谷			2	225B2-2307		
	スポーツバイオメカニクス特講演習		宮崎			2	225B2-2308		
	スポーツ生化学特講演習		吉田			2	225B2-2309		
スポーツ栄養学特講演習	石澤			2	225B2-2310				
身体教育特講演習II A	[井福]・[坂本]			2	225B2-2311				
身体教育特講演習II B	[塩瀬]			2	225B2-2312				
スポーツ人文・応用社会科学	スポーツ史・運動文化論特講演習	中村(真)・[山田]・[森(亮)]			2	226B3-2300			
	スポーツ法・倫理特講演習	[森(亮)]			2	226B3-2301			
	生涯スポーツ学特講演習	北村・[大勝]			2	226B3-2302			
	野外教育論特講演習	坂口			2	226B3-2303			
	スポーツ社会学特講演習	北村・日下			2	226B3-2304			
	スポーツ経営学特講演習	開野・横田・[関]			2	226B3-2305			
	スポーツ心理学特講演習	森(司)・中本・幾留			2	226B3-2306			
	スポーツ教育学特講演習	椿			2	226B3-2307			
スポーツ情報学特講演習	和田			2	226B3-2308				
課題研究	課題研究科目	課題研究 I	研究指導担当教員	5			227C4-2100		
		課題研究 II	研究指導担当教員	5			227C4-2101		

共通科目

スポーツ科学リテラシー特講	1
スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習	2
スポーツ科学セミナー	3
キャリアデザイン演習	4
コア特講演習・実習	5
スポーツ科学英語特講	9
身体教育特講Ⅰ	11
身体教育特講演習Ⅰ	12

基礎科目

【スポーツ・武道実践科学】

コーチング学特講	13
武道指導論特講	14
武道論特講	15
スポーツパフォーマンス学特講	16

【スポーツ生命科学】

ヘルスサイエンス特講	17
スポーツ医科学特講	18
スポーツ生理学特講	19
トレーニング科学特講	20
スポーツバイオメカニクス特講	21
スポーツ生化学特講	22
スポーツ栄養学特講	23
身体教育特講ⅡA	24
身体教育特講ⅡB	25

【スポーツ人文・応用社会科学】

スポーツ人文学特講	26
スポーツ社会科学特講	27
スポーツ心理学特講	28
スポーツ教育学特講	29
スポーツ情報学特講	30

応用科目

【スポーツ・武道実践科学】

コーチング学特講演習 (陸上競技(トラック))	31
コーチング学特講演習 (陸上競技(フィールド))	32
コーチング学特講演習(水泳)	33
コーチング学特講演習(体操競技)	34
コーチング学特講演習(サッカー)	35
コーチング学特講演習(バスケットボール)	36
コーチング学特講演習(テニス)	37
コーチング学特講演習(バレーボール)	38
コーチング学特講演習(海洋スポーツ)	39
コーチング学特講演習(自転車)	40
コーチング学特講演習(野球)	41
武道指導論特講演習(剣道)	42
武道指導論特講演習(柔道)	43
武道論特講演習	44
スポーツパフォーマンス学特講演習	45

【スポーツ生命科学】

ヘルスサイエンス特講演習	46
スポーツ医科学特講演習	47
公衆衛生学特講演習	48

運動処方論特講演習	49
トレーニング科学特講演習	50
スポーツ生理学特講演習	51
身体科学論特講演習(生体ダイナミクス)	52
身体科学論特講演習(身体機能論)	53
スポーツバイオメカニクス特講演習	54
スポーツ生化学特講演習	55
スポーツ栄養学特講演習	56
身体教育特講演習ⅡA	57
身体教育特講演習ⅡB	58

【スポーツ人文・応用社会科学】

スポーツ史・運動文化論特講演習	59
スポーツ法・倫理特講演習	60
生涯スポーツ学特講演習	61
野外教育論特講演習	62
スポーツ社会学特講演習	63
スポーツ経営学特講演習	64
スポーツ心理学特講演習	65
スポーツ教育学特講演習	66
スポーツ情報学特講演習	67

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ科学リテラシー特講		授業形態	講義	授業科目区分	共通科目 (共通)
担当教員名	前田 明・金久 博昭・中垣内 真樹・森 司朗・金高 宏文・北村 尚浩・高橋 仁大・竹中 健太郎・藤田 英二・廣津 匡隆・赤澤 暢彦・日下 知明・棟田 雅也・栗山 靖弘				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	本講義は、スポーツ科学における総合科学（応用科学、実践科学等）、人文・社会科学、自然・生命科学の各研究領域について、今日までの研究動向や最先端の研究成果、さらに主な研究の考え方（研究哲学を含む）やその有効性や限界性等を各専門分野の教員が概説する。これにより、様々なスポーツ科学分野の研究を理解し、実践や研究で活用する基礎的な能力（リテラシー）の修得を目指す。					
成績評価の方法	研究領域毎に30点を配し（30点×3領域＝90点）、各領域ともレポート等により総合的に評価する。残りの10点は、授業1、2、15回目のレポート等により総合的に評価する。なお、成績評価は、レポート等の提出状況（100％）とする。					
成績評価の基準	成績評価の条件として出席は2/3以上を求める。レポート等は、その課題に対する達成度より評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	担当教員ごとに要予約（相談）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポ-ト等課題の指示)	
1	前田 明	スポーツ科学リテラシー総論			レポート1時間	
2	"	PROGテスト			レポート1時間	
3	藤田 英二	スポーツ総合科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論1（トレーニング科学）			レポート1時間	
4	金高 宏文	スポーツ総合科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論2（コーチング、コッ ・カン等の研究）			レポート1時間	
5	高橋 仁大	スポーツ総合科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論3（スポーツパフォー マンス研究）			レポート1時間	
6	竹中 健太郎	スポーツ総合科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論4（競技スポーツ・武 道等の各種分析に関する研究）			レポート1時間	
7	北村 尚浩	スポーツ文化・社会科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論1（身体スポ ーツ活動への社会的アプローチ）			レポート1時間	
8	日下 知明	スポーツ文化・社会科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論2（スポーツ政 策学領域の研究アプローチ）			レポート1時間	
9	栗山 靖弘	スポーツ文化・社会科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論3（スポーツ/ 教育社会学の研究手法とリテラシー）			レポート1時間	
10	棟田 雅也	スポーツ文化・社会科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論4（スポーツマ ネジメントリテラシー）			レポート1時間	
11	赤澤 暢彦	スポーツ生命科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論1（運動生理学・パイ オメカニクス領域の研究遂行に要するリテラシー）			レポート1時間	
12	廣津 匡隆	スポーツ生命科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論2（スポーツ健康科学 論）			レポート1時間	
13	中垣内 真樹	スポーツ生命科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論3（高齢者の運動処方 ）			レポート1時間	
14	森 司朗	スポーツ生命科学分野におけるスポーツ科学リテラシー各論4（スポーツ行動科学 論）			レポート1時間	
15	金久 博昭	学位論文作成方法				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ科学ナレッジ・マネジメント演習		授業形態	演習	授業科目区分	共通科目 (共通)
担当教員名	前田 明・金久 博昭・田巻 弘之・北村 尚浩・和田 智仁・中村 夏実・竹中 健太郎・高井 洋平・吉田 剛一郎・坂中 美郷・藤井 雅文・日下 知明・成田 健造・棟田 雅也・宮崎 輝光・栗山 靖弘				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	<p>本演習は、スポーツ科学における総合科学（応用科学、実践科学等）、人文・社会科学、自然・生命科学の各研究領域における学術論文作成やプレゼンテーション等に必要な手法や方法について概説・演習する。</p> <p>具体的には、各領域における実験方法、調査方法並びに統計処理方法やデータベース作成法、プレゼンテーション方法等について行う。さらに、研究室における実験器具やデータの管理、研究室の運営方法（研究記録の記載方法、安全管理方法、外部資金獲得方法、知的財産の保護方法等）についても行う。</p> <p>これにより、受講生は修士論文作成のための準備と方略やマネジメント力を得ることができる。</p>					
成績評価の方法	授業時間毎に7点を配し（7点×13回＝91点）、各領域とも・レポート等により総合的に評価する。残りの9点は、授業1,15回目のレポート等により総合的に評価する。なお、成績評価は、レポート等の提出状況（100%）とする。					
成績評価の基準	成績評価の条件として出席は2/3以上を求める。レポート等は、その課題に対する達成度より評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)				
オフィス・アワー	担当教員ごとに要予約（相談）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポ-ト等課題の指示)	
1	前田 明	大学院における研究室と研究組織			レポート1時間	
2	成田 健造	最新スポーツ科学研究の紹介1			レポート1時間	
3	棟田 雅也	最新スポーツ科学研究の紹介2			レポート1時間	
4	田巻 弘之	研究室管理・運営（予算、外部資金獲得、研究倫理審査、研究情報保護）			レポート1時間	
5	高井 洋平	スポーツ総合科学分野における実験方法と調査方法1（トレーニング科学領域における実例から）			レポート1時間	
6	竹中 健太郎	スポーツ総合科学分野における実験方法と調査方法2（武道領域における事例から）			レポート1時間	
7	日下 知明	スポーツ文化・社会科学分野における資料収集と調査方法1（質的調査の方法）			レポート1時間	
8	北村 尚浩	スポーツ文化・社会科学分野における資料収集と調査方法2（社会調査）			レポート1時間	
9	宮崎 輝光	スポーツ生命科学分野における実験方法と調査方法1（バイオメカニクス）			レポート1時間	
10	吉田 剛一郎	スポーツ生命科学分野における実験方法と調査方法2（健康科学）			レポート1時間	
11	和田 智仁	データ処理方法1（データの分析）			レポート1時間	
12	"	データ処理方法2（分析結果の表現）			レポート1時間	
13	中村 夏実 坂中 美郷 藤井 雅文	プレゼンテーション1（実践と他者評価）			レポート1時間	
14	"	プレゼンテーション2（実践と自己評価）			レポート1時間	
15	金久 博昭	学術論文作成方法			レポート1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ科学セミナー		授業形態	講義・演習	授業科目区分	共通科目 (共通)
担当教員名	研究科教務委員会			補助担当者名		
単位数	1 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	<p>本授業は、スポーツ科学における最先端の研究成果を幅広く理解するとともに、研究におけるプレゼンテーションスキルやコミュニケーションスキルを理解・修得することを狙っている。</p> <p>そのために、学外講師招聘等による「特別講義」への参画、「修士論文中間発表会」と「修士課程学位論文発表会」への参画やPROGテストの受験をとおして、学生自身の専門性を深化するとともに他の専門領域との関係性や相違性を鮮鋭化することを期待している。</p>					
成績評価の方法	授業時間および発表会毎に点を配し（特別講義（8点×6回）、修士論文中間発表会（25点）、修士課程学位論文発表会（25点）PROGテスト解説会（2点））レポート等により総合的に評価する。					
成績評価の基準	成績評価の条件として出席は2/3以上を求める。レポート等は、その課題に対する達成度より評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜、必要に応じて提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)	特別講義については特に、時間割として定められている曜日・時限に開講されるものは必ず受講すること。			
オフィス・アワー	担当教員ごとに要予約（相談）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	特別講義（6回）の出席をすること 修士論文中間発表会、修士課程学位論文発表会、PROGテスト解説会 ：それぞれ参加すること			レポート1時間	
2	"	"			レポート1時間	
3	"	"			レポート1時間	
4	"	"			レポート1時間	
5	"	"			レポート1時間	
6	"	"			レポート1時間	
7	"	"			レポート1時間	
8	"	"			レポート1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コープ特講演習・実習（フィールドワーク型：30時間）		授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通科目 (共通)
担当教員名	梶 ちか子・研究科教務委員会・金高 宏文・栗山 靖弘				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	2-3
授業の概要 及び達成目標	<p>今日、小学校における体育科教育では、教師の「実践的指導力」の向上が求められている。また、文部科学省は、小学校高学年において「教科担任制」の導入を進めており、「体育」も対象教科となっている。</p> <p>本授業では、大学内で行う演習等で身につけた知識や指導スキルを活用し、大学外で実際に小学校の体育授業の指導補助や授業支援を行う。学校現場での複数回の指導補助や授業支援の実習を通して、小学校における教員のニーズに対応した、体育科教育における学習支援（コーディネイト）を行えることを目標としている。</p> <p>本演習・実習は、事前・事後学修と大学外の集中的な実習先（原則、鹿屋市内の小学校）での活動が中心になる。</p>					
成績評価の方法	学期末試験の成績（％） 授業（演習・実習）への取り組み状況（60％） レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業・打ち合わせへの積極的な取り組み、レポート、実習（模擬授業）の内容により総合的に判断する。					
テキスト、教材 参考書	適宜、提示する。					
履修条件・ 関連科目	中学校の保健体育科の教員免許状を有していること	備考(教員メッ セージ含む)	フィールドワーク型の演習・実習を実施する受入先は、原則、鹿屋市内の小学校とする。			
オフィス・アワー	随時：研究棟7階，703教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	梶 ちか子	オリエンテーション コープ実習の目的・意義・内容			授業の復習(30分)	
2	"	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
3	"	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
4	"	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
5	"	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
6	"	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察 演習・実習の期間 <ul style="list-style-type: none"> ・実習30コマ（30時間：積み上げ） ・実習60コマ（60時間：積み上げ） 			実習の準備と整理(120分)	
7	"	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察 			実習の準備と整理(120分)	
8	"	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察 			実習の準備と整理(120分)	
9	"	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察 			実習の準備と整理(120分)	
10	"	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察 			実習の準備と整理(120分)	
11	"	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察 			実習の準備と整理(120分)	
12	"	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察 			実習の準備と整理(120分)	
13	"	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察 			実習の準備と整理(120分)	
14	"	小学校体育授業補助体験の実践発表			発表の準備(60分)	
15	"	小学校体育授業補助体験の実践発表			発表の振り返り(60分)	
16	"	全体省察				

授業科目名 (ナンバリングコード)	コープ特講演習・実習(フィールドワーク型:60時間)		授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通科目 (共通)
担当教員名	梶 ちか子・研究科教務委員会・金高 宏文・栗山 靖弘				補助担当者名	
単位数	3 単位	履修年次	-		受け入れ人数	2-3
授業の概要 及び達成目標	<p>今日、小学校における体育科教育では、教師の「実践的指導力」の向上が求められている。また、文部科学省は小学校高学年での「教科担任制」の導入を進めており、「体育」も対象教科となっている。</p> <p>本授業では、大学内で行う演習等で身につけた知識や指導スキルを活用し、大学外で実際に小学校の体育授業の指導補助や授業支援を行う。学校現場での複数回の指導補助や授業支援の実習を通して、小学校における教員のニーズに対応した、体育科教育における学習支援(コーディネイト)を行えることを目標としている。</p> <p>本演習・実習は、事前・事後学修と大学外の集中的な実習先(原則、鹿屋市内の小学校)での活動が中心になる。修得できる単位は3単位とし、その場合の実習は60時間以上とする。</p> <p>【授業に含まれる活動】 ・実施あり、×・・・実施なし、・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク()、ディスカッション・討論()、プレゼンテーション・発表()、 フィールドワーク()</p>					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業(演習・実習)への取り組み状況(60%) レポート等の提出状況(40%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業・打ち合わせへの積極的な取り組み, レポート, 実習(模擬授業)の内容により総合的に判断する。					
テキスト、教材 参考書	適宜, 提示する。					
履修条件・ 関連科目	中学校の保健体育科の教員免許状を有していること	備考(教員メッ セージ含む)	フィールドワーク型の演習・実習を実施する受入先は、原則、鹿屋市内の小学校とする。			
オフィス・アワー	随時: 研究棟7階 703教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	梶 ちか子	オリエンテーション コープ実習の目的・意義・内容			授業の復習(30分)	
2	"	事前学修(理論学習, 模擬授業, 教材開発等)			事前学修の準備と復習(60分)	
3	"	事前学修(理論学習, 模擬授業, 教材開発等)			事前学修の準備と復習(60分)	
4	"	事前学修(理論学習, 模擬授業, 教材開発等)			事前学修の準備と復習(60分)	
5	"	事前学修(理論学習, 模擬授業, 教材開発等)			事前学修の準備と復習(60分)	
6	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察 演習・実習の期間 ・実習60コマ(60時間: 積み上げ)			実習の準備と整理(120分)	
7	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
8	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
9	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
10	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
11	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
12	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
13	"	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業(補助) ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
14	"	小学校体育授業補助体験の実践発表			発表の準備(60分)	
15	"	小学校体育授業補助体験の実践発表			発表の振り返り(60分)	
16	"	全体省察				

授業科目名 (ナンバリングコード)	コープ特講演習・実習(インターンシップ型:60時間)	授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通科目 (共通)
担当教員名	梶 ちか子・研究科教務委員会・金高 宏文・栗山 靖弘			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-	受け入れ人数	2-3
授業の概要 及び達成目標	<p>本演習・実習は、修士課程の学生を対象とし、「国民のニーズに応じた適切なスポーツ指導指導やプログラム開発及びマネジメント、トップアスリートに対する科学的なトレーニング指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度専門職業人として中核的な役割を担う人材を養成する」ために、大学内で身につけた知識や指導・研究スキルを活用し、大学外で実際に指導、研究、実務の実習を行うものである。産業界(研究機構を含む)と連携するものは「インターンシップ型」の実習では、大学外で実際に研究・開発機関等で研究・開発補助や研究・開発支援を行う。研究・開発機関での研究・開発補助や研究・開発支援の実習を通して、研究・開発機関等のニーズに対応した、研究・開発等を行えることを目標とする。</p> <p>本演習・実習は、事前・事後学修と大学外の集中的な実習先での活動が中心になる。修得できる単位は最大2単位とし、その場合の実習は60時間以上とする。</p>				
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業(演習・実習)への取り組み状況(60%) レポート等の提出状況(40%) を総合的に評価する。				
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習、大学と実習先との往還で行う演習活動、実習活動、事後活動を総合的に判断して評価する。 実習先での実習者の資質・能力も評価も加える。 				
テキスト、教材 参考書	適宜、提示する。				
履修条件・ 関連科目	インターンシップ型の演習・実習する研究・開発機関等で求められる資質・能力の要件があると研究指導教員が認める学生であること。	備考(教員メッセージ含む)	インターンシップ型の演習・実習する受入先は、原則、国内の研究・開発機関等とする。		
オフィス・アワー	随時:研究棟7階,703研究室				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	オリエンテーション コープ実習の目的・意義・内容		授業の復習と演習・実習計画等の立案(60分)	
2	"	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
3	"	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
4	"	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
5	"	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
6	"	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 インターンシップ型実習先での研究・開発活動 インターンシップ型実習先での視察研修 演習・実習の期間 2単位の場合は、実習60コマ(60時間:2週間) 		<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習のタイムスケジュール管理等(30分) 日々の実習の振り返り(30分) 	
7	"	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 インターンシップ型実習先での研究・開発活動 インターンシップ型実習先での視察研修 		<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習のタイムスケジュール管理等(30分) 日々の実習の振り返り(30分) 	
8	"	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 インターンシップ型実習先での研究・開発活動 インターンシップ型実習先での視察研修 		<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習のタイムスケジュール管理等(30分) 日々の実習の振り返り(30分) 	
9	"	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 インターンシップ型実習先での研究・開発活動 インターンシップ型実習先での視察研修 		<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習のタイムスケジュール管理等(30分) 日々の実習の振り返り(30分) 	
10	"	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 インターンシップ型実習先での研究・開発活動 インターンシップ型実習先での視察研修 		<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習のタイムスケジュール管理等(30分) 日々の実習の振り返り(30分) 	
11	"	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 インターンシップ型実習先での研究・開発活動 インターンシップ型実習先での視察研修 		<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習のタイムスケジュール管理等(30分) 日々の実習の振り返り(30分) 	
12	"	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 インターンシップ型実習先での研究・開発活動 インターンシップ型実習先での視察研修 		<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習のタイムスケジュール管理等(30分) 日々の実習の振り返り(30分) 	
13	"	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 インターンシップ型実習先での研究・開発活動 インターンシップ型実習先での視察研修 		<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習のタイムスケジュール管理等(30分) 日々の実習の振り返り(30分) 	
14	"	インターンシップ型の実習の取組発表		発表の準備(60-120分)	
15	"	インターンシップ型の実習の取組の振り返り 総括		発表の振り返り(60分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コープ特講演習・実習（インターンシップ型：90時間）	授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通科目 (共通)
担当教員名	梶 ちか子・研究科教務委員会・金高 宏文・栗山 靖弘			補助担当者名	
単位数	4 単位	履修年次	-	受け入れ人数	2-3
授業の概要 及び達成目標	<p>本演習・実習は、修士課程の学生を対象とし、「国民のニーズに応じた適切なスポーツ指導指導やプログラム開発及びマネジメント、トップアスリートに対する科学的なトレーニング指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度専門職業人として中核的な役割を担う人材を養成する」ために、大学内で身につけた知識や指導・研究スキルを活用し、大学外で実際に指導、研究、実務の実習を行うものである。産業界（研究機構を含む）と連携するものは「インターンシップ型」の実習では、大学外で実際に研究・開発機関等で研究・開発補助や研究・開発支援を行う。研究・開発機関での研究・開発補助や研究・開発支援の実習を通して、研究・開発機関等のニーズに対応した、研究・開発等を行えることを目標とする。</p> <p>本演習・実習は、事前・事後学修と大学外の集中的な実習先での活動が中心になる。修得できる単位は最大4単位とし、その場合の実習は90時間以上とする。</p>				
成績評価の方法	学期末試験の成績（％） 授業（演習・実習）への取り組み状況（60％） レポート等の提出状況（40％）を総合的に評価する。				
成績評価の基準	・事前学習、大学と実習先との往還で行う演習活動、実習活動、事後活動を総合的に判断して評価する。 ・実習先での実習者の資質・能力も評価も加える。				
テキスト、教材 参 考 書	適宜、提示する。				
履修条件・ 関連科目	インターンシップ型の演習・実習する研究・開発機関等で求められる資質・能力の要件があると研究指導教員が認める学生であること。	備考(教員メッセージ含む)	インターンシップ型の演習・実習する受入先は、原則、国内の研究・開発機関等とする。		
オフィス・アワー	随時：研究棟7階，703研究室				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	オリエンテーション コープ実習の目的・意義・内容		授業の復習と演習・実習計画等の立案(60分)	
2	"	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
3	"	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
4	"	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
5	"	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
6	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修 演習・実習の期間 ・4単位の場合は、実習90コマ（90時間：3週間）		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
7	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
8	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
9	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
10	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
11	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
12	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
13	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
14	"	インターンシップ型の実習の取組発表		発表の準備(60-120分)	
15	"	インターンシップ型の実習の取組の振り返り 総括		発表の振り返り(60分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ科学英語特講	授業形態	講義・演習	授業科目区分	共通科目 (共通)
担当教員名	国重 徹・エルメス デイビット・石原 豊一			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	修士課程1年	受け入れ人数	10名程度
授業の概要 及び達成目標	<p>本授業は、昨年度までのスポーツ科学英語特講 及び を1つにまとめたものである。授業の概要はそれぞれ以下の通りである。</p> <p>【エルメス先生担当分】 21世紀のスポーツ科学は、人文・社会科学および自然科学の知見を融合した学際的な分野として発展しており、研究成果を国際的に発信する能力が重要となっている。国際社会における学術的な共通言語は英語であり、研究成果を英語で発信する能力は、スポーツ科学分野の研究者にとって不可欠である。</p> <p>本授業のうちエルメス担当回では、スポーツ科学分野の英語論文のabstractに焦点を当て、その構成や表現方法を理解するとともに、英語のabstractを読解・分析し、自身の研究内容を簡潔かつ明確に英語でまとめる能力の習得を目的とする。最終的には、各自の研究内容に基づいたabstractを英語で作成することを到達目標とする。</p> <p>【国重先生・石原先生担当分】 本講義・演習は英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技術を育成する。今まで蓄積した英語をベースに、授業中のタスクをしながら、提案や説得ができる (persuasive)、あるいは効果的に情報伝達ができる (informative) 英語力を養いつつ、プレゼンテーションの技術も徐々にアップできるように学習を進める。プレゼンテーションの作成にあたり、英語でのパラグラフ・ライティングについても学ぶ。本授業を通して、本学の教育目標やカリキュラムポリシーにおける「国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力」の涵養が期待される。ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション・発表</p>				
成績評価の方法	<p>【エルメス先生担当分】 授業への取り組み状況 (20%) レポート等 (宿題) の提出状況 (30%) 再提出不可。 最終課題 (50%) 最終回に英語によるabstract作成を行う。</p> <p>【国重先生担当分】 ほぼ毎時間行う英語によるプレゼンテーション (70%) 授業への取り組み状況 (20%) レポート等の提出状況 (10%) を総合的に評価する。</p> <p>【石原先生担当分】 授業への出席、プレゼンテーション、資料作成を総合的に判断する。</p>				
成績評価の基準	上記3人の教員の評価を平均し、最終評価を算出する。				
テキスト、教材 参考書	<p>【エルメス先生担当分】 教科書は使用しない。必要な資料や課題はWebClassを通じて提示する。</p> <p>【国重先生担当分】 毎回、プリント等の教材をこちらで準備、配布します。</p> <p>【石原先生担当分】 テキストは特に使用しない。</p>				
履修条件・ 関連科目	<p>【エルメス先生担当分】 特になし。</p> <p>【国重先生担当分】 私が実施しているマンツーマンでの英語指導にできるだけ参加しましょう。関連科目は学部での総合英語。</p> <p>【石原先生担当分】 特になし。</p>	備考(教員メッ セージ含む)	<p>【エルメス先生担当分】 この授業では毎回グループワークを行い、英語論文のabstractを読みながらその構成や表現方法を分析します。自身の研究分野に関連するabstractを読み、授業で扱う質問にどのように答えているかを確認しておくことが、授業理解と最終課題の作成に役立ちます。</p> <p>【国重先生担当分】 使える英語のプレゼンテーション技術を身につけられるよう、一緒に学びましょう。</p> <p>【石原先生担当分】 特になし。</p>		
オフィス・アワー	<p>【エルメス先生担当分】 メールまたはWebClassで連絡のうえ、時間を調整してください。</p> <p>【国重先生担当分】 木曜日 昼休み及び12:40～13:00</p> <p>【石原先生担当分】 月曜日 昼休み。要事前連絡。</p>				

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)
1	エルメス デイビット	Introduction and Research Importance Introduction (講義内容・進行方法の概略) Abstract Question 1: "What is the importance of your research?"	Homework: Self Introduction Worksheet; Read English research abstracts and identify sentences that answer the research questions. (90分)
2	"	Research Problem and Research Focus Abstract Question 2: "What problem does this work attempt to solve?"	Homework: Paragraph Writing Worksheet; Read English research abstracts and identify sentences that answer the research questions. (90分)
3	"	Research Methods and Results "What methods did you use?" "What are some of your results?"	Homework: Research Verb Worksheet; Read English research abstracts and identify sentences that answer the research questions. (90分)
4	"	Research Contribution and Implications "How does your work add to the knowledge of the topic?" "What are the implications of your answer?"	Homework: Read English research abstracts and identify sentences that answer the research questions. (90分)
5	"	Writing Your Research Abstract Final Test: Writing your research abstract	
6	国重 徹	国重担当分の授業のオリエンテーション、 Course Introduction, Tips for a Successful Presentation, Presentation Assignment 1	今回の授業の復習、発表準備 (120分)
7	"	Presentation on Topic 1, Peer Review, Presentation Assignment 2	今回の授業の復習、発表準備 (120分)
8	"	Topic 2 Presentation Preparation	今回の授業の復習、発表準備 (120分)
9	"	Topic 2 Presentation on (First Round), Peer Review, Revision of the Presentation	今回の授業の復習、プレゼン修正、発表準備 (120分)
10	"	Topic 2 Presentation (Second Round), Review	今回の授業の復習、プレゼン完成 (90分)
11	石原 豊一	自分史について発表	次回に向けてのプレゼン資料作成 (90分)
12	"	自身のスポーツについての発表	次回に向けてのプレゼン資料作成 (90分)

13	"	英語での自己紹介（前2回のまとめ）	次回に向けてのプレゼン資料作成（90分）
14	"	自身の研究テーマについて考える	次回に向けてのプレゼン資料作成（90分）
15	"	自身の研究テーマについての英語での発表	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講		授業形態	講義	授業科目区分	共通科目 (共通)
担当教員名	森 司朗・井福 裕俊・坂本 将基・金高 宏文・中村 夏実・中本 浩揮・藤田 英二・高井 洋平・梶 ちか子・廣津 匡隆・赤澤 暢彦・塩瀬 圭佑・幾留 沙智・石澤 里枝			補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	1年次	受け入れ人数	5名
授業の概要 及び達成目標	身体の特性（身体性）について理解を深めるとともに、身体を教育するための様々な手段について、心・技・体の観点から学び、生涯にわたって身体を育てていくための基礎的な能力を身につける。 【授業に含まれる活動】 ・・実施あり、x・・・実施なし、・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（ ）、ディスカッション・討論（ ）、プレゼンテーション・発表（ ）、フィールドワーク（ x ）					
成績評価の方法	学期末試験の成績（ % ） 授業への取り組み状況（ 40% ） レポート等の提出状況（ 60% ） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取り組み状況の評価は、自分の考えを適切に表現できるかを重視する。					
テキスト、教材 参考書	テキストは使用しない。資料を適宜、配布する。					
履修条件・ 関連科目	同時開講予定の「身体教育特講演習 」を履修すること。	備考(教員メッセージ含む)	本講義は、連携教育プログラム履修生の必修科目。原則として夏期休業中の約1週間程度とし、開講時期については、連携プログラム履修生の都合を優先する。なお、講義の順序が変更になる場合もある。			
オフィス・アワー	集中講義の期間中に各教員が対応する。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	赤澤 暢彦	身体の特性（身体性）について			身体の特性（身体性）についての復習（30分以上）	
2	梶 ちか子	身体教育の手段について			身体教育の手段についての復習（30分以上）	
3	森 司朗	動機づけ等について			動機づけ等についての復習（30分以上）	
4	中本 浩揮	心のトレーニングについて			心のトレーニングについての復習（30分以上）	
5	坂本 将基	身体意識の変容と運動技能について			身体意識の変容と運動技能についての復習（30分以上）	
6	金高 宏文	運動指導とコツ・カンについて			運動指導とコツ・カンについての復習（30分以上）	
7	井福 裕俊	体力について			体力についての復習（30分以上）	
8	高井 洋平	アスリートの体力トレーニングについて			体力トレーニングについての復習（30分以上）	
9	藤田 英二	健康づくりのための運動処方について			運動処方についての復習（30分以上）	
10	塩瀬 圭佑	健康と生活習慣について			健康と生活習慣についての復習（30分以上）	
11	石澤 里枝	栄養について			栄養についての復習（30分以上）	
12	中村 夏実	自然環境での身体活動について（海洋スポーツ）			自然環境での身体活動について（海洋スポーツ）の復習（30分以上）	
13	幾留 沙智	休養について			休養についての復習（30分以上）	
14	廣津 匡隆	コンディショニングと障害予防について			コンディショニングと障害予防についての復習（30分以上）	
15	森 司朗	まとめ			課題レポートの作成（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講演習		授業形態	講義	授業科目区分	共通科目 (共通)
担当教員名	森 司朗・井福 裕俊・小澤 雄二・金高 宏文・中村 夏実・中本 浩揮・藤田 英二・高井 洋平・永原 隆・萬久 博敏・廣津 匡隆・赤澤 暢彦・塩瀬 圭佑・幾留 沙智・石澤 里枝			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	1年次		受け入れ人数	5名
授業の概要 及び達成目標	「身体教育特講」で学んだ身体を教育するための様々な手段について、心・技・体に関する文献購読や調査・測定・討論等を通して理解を深め、生涯にわたって身体を育てていくための実践的な能力と指導力を身につける。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(40%) レポート等の提出状況(60%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取り組み状況の評価は、自分の考えを適切に表現できるかを重視する。					
テキスト、教材 参考書	テキストは使用しない。資料を適宜、配布する。					
履修条件・ 関連科目	同時開講予定の「身体教育特講」を履修すること。	備考(教員メッ セージ含む)	本演習は、連携教育プログラム履修生の必修科目。原則として夏期休業中の約1週間程度とし、開講時期については、連携プログラム履修生の都合を優先する。なお、演習の順序が変更になる場合もある。			
オフィス・アワー	集中講義の期間中に各教員が対応する。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	動機づけについて			動機づけについての復習(30分以上)	
2	中本 浩揮	心のトレーニングについて			心のトレーニングについての復習(30分以上)	
3	金高 宏文 永原 隆	運動指導とバイオメカニクスとコツ・カンについて			運動指導とバイオメカニクスとコツ・カンについての復習(30分以上)	
4	"	運動指導とバイオメカニクスとコツ・カンについて			運動指導とバイオメカニクスとコツ・カンについての復習(30分以上)	
5	小澤 雄二	運動指導とコツ・カンについて(柔道)			運動指導とコツ・カンについて(柔道)の復習(30分以上)	
6	井福 裕俊	体力について			体力についての復習(30分以上)	
7	高井 洋平	球技スポーツにおける攻防の評価について			球技スポーツにおける攻防の評価についての復習(30分以上)	
8	塩瀬 圭佑	健康と生活習慣について(調査と評価)			健康と生活習慣の調査と評価についての復習(30分以上)	
9	藤田 英二	健康づくりのための運動処方について			健康づくりのための運動処方についての復習(30分以上)	
10	萬久 博敏	運動指導とコツ・カンについて(水泳)			運動指導とコツ・カンについて(水泳)の復習(30分以上)	
11	石澤 里枝	栄養について			栄養についての復習(30分以上)	
12	幾留 沙智	休養について			休養の調査と評価についての復習(30分以上)	
13	廣津 匡隆	コンディショニングと障害予防について			コンディショニングと障害予防についての復習(30分以上)	
14	中村 夏実	自然環境下の運動について			自然環境下の運動についての復習(30分以上)	
15	森 司朗	まとめ			課題レポートによるまとめ(3時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ実践科学)
担当教員名	金高 宏文・永原 隆・小森 大輔・山下 龍一郎				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	1		受け入れ人数	10
授業の概要 及び達成目標	<p>日本におけるスポーツ等のコーチの現状と課題について理解し、プレーヤーズセンタードコーチングが行える資質・能力を高める。さらに、将来にわたってコーチの資質・能力を高めることや、コーチのコーチ(コーチ・デベロッパー)としての資質・能力を高めために、コーチング・ケーススタディの行い方を指導者等へのインタビュー、そして発表・討論等を通して身につける。また、データを活用したコーチングや動感を重視したコーチングについても概説・演習を通じて身につける。</p> <p>【授業に含まれる活動】 ・ ・ ・実施あり、x ・ ・ ・実施なし、 ・ ・ ・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク()、ディスカッション・討論()、プレゼンテーション・発表()、フィールドワーク()</p>					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(30%) レポート等の提出状況(70%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	毎回の課題の実施と討論への参画・貢献の充実度や積極性(2点×15回)、1-8回授業の課題等(37点:32点+加点5点)、9-11回授業の課題等(14点:12点+加点2点)、12-15回授業の課題等(19点:16点+加点3点)の充実度が評価尺度となる。					
テキスト、教材 参考書	その都度、教員または受講者が準備する、必要とする参考資料は適時紹介、配付する。詳しい資料は「Web-Class」より授業後にダウンロードすること。 参考図書として、「コーチング学への招待(大修館書店、@2,700円)」「基礎から学ぶスポーツ運動学(大修館書店、@2,750円)」「Refarence Book(JSPO、@4,000円)」「球技のコーチング学(大修館書店、@2,700円)」を推薦する。					
履修条件・ 関連科目	現在または将来、スポーツ等の指導を行うことを前提としていること。	備考(教員メッセージ含む)	スポーツのコーチングや運動指導の経験や実践場面があることが望ましい。			
オフィス・アワー	金高:木曜日 15:00~16:00(大学院棟3階 教員研究室4) 小森:随時(要予約) 研究棟8階 805教員研究室 永原:随時(要予約) 大学院棟3階 教員研究室1 山下:随時(要予約) 研究棟7階 701教員研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	金高 宏文 小森 大輔	オリエンテーション、日本におけるスポーツ等のコーチ養成の現状と課題(1)			復習と予習:当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備(60分)	
2	"	日本におけるスポーツ等のコーチ養成の現状と課題(2)			復習と予習:当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備(60分)	
3	"	スポーツ等のコーチに求められる資質・能力(1)			復習と予習:当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備(60分)	
4	"	スポーツ等のコーチに求められる資質・能力(2)			復習と予習:当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備(60分)	
5	"	スポーツ等のコーチを取り巻く環境における現状と課題(1)			復習と予習:当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備(60分)	
6	"	スポーツ等のコーチを取り巻く環境における現状と課題(2)			復習と予習:当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備(60分)	
7	"	コーチング・ケーススタディの行い方(1)			復習と予習:当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備(60分)	
8	"	コーチング・ケーススタディの行い方(2)			復習と予習:当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備(60分)	
9	永原 隆	データを活用したコーチング(1)			復習と予習:当該時間の授業内容に関連する資料収集とプレゼンの準備(60分)	
10	"	データを活用したコーチング(2)			復習と予習:当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備(60分)	
11	"	データを活用したコーチング(3)			復習と予習:当該時間の授業内容、プレゼンの振り返り(60分)	
12	山下 龍一郎	運動の感覚と意識に着目したコーチング(1)			復習と予習:当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備(60分)	
13	"	運動の感覚と意識に着目したコーチング(2)			復習と予習:当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備(60分)	
14	"	運動の感覚と意識に着目したコーチング(3)			復習と予習:当該時間の授業内容に関連する資料収集と次週でのプレゼンの準備(60分)	
15	"	運動の感覚と意識に着目したコーチング(4)			総括レポートの作成(120分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道指導論特講		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ実践科学)
担当教員名	前阪 茂樹・小澤 雄二				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	我が国の伝統文化として世界に発信されている武道の歴史・人物・文化・競技等の様々な側面を俯瞰し、武道教育について高度な専門知識・技術・指導の教授研究能力を養うことを目標とする。					
成績評価の方法	前阪担当分50%，小澤担当分50%で評価					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に評価する。 授業への意欲、プレゼンテーション能力、レポート等により総合的に判断する。					
テキスト、教材 参考書	武道極意，鈴木禮太郎著，昭和9年刊，平凡社 その他適宜資料を配布する。					
履修条件・ 関連科目	武道の経験を有し、研究を志している者	備考(教員メッ セージ含む)	関連行事、関連学会への参加を望む。			
オフィス・アワー	随時 前阪：506研究室 小澤：502研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前阪 茂樹 小澤 雄二	オリエンテーション				
2	小澤 雄二	柔道論			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
3	"	柔道の指導方法論			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
4	"	柔道の心理学			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
5	"	柔道の技術論			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
6	"	柔道の体力トレーニング学			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
7	"	柔道のスポーツ医学			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
8	"	柔道指導の総括 発表(第2～7講のテーマを総括して...)			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
9	前阪 茂樹	歴史/文化について 「剣道史概観」			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
10	"	思想/哲学について 「殺人刀 活人剣」			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
11	"	技術体系について 「形と竹刀剣道」			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
12	"	修行について 「生涯剣道」			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
13	"	試合について 「近代スポーツとの比較」			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
14	"	指導について 「勝負論と上達論」			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
15	"	剣道指導の総括 発表(第9～14講のテーマを総括して...)				

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道論特講		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ実践科学)
担当教員名	前阪 茂樹				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	武道が世界に誇る日本文化として成立した過程やその発展について概観するとともに近世に記された武道伝書の内容に触れ、武道の固有性について、その構造を考究し、専門的知識を得ることを目標とする。					
成績評価の方法	授業への取り組み状況 (80%) レポート等の提出状況 (20%)					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に判断、評価する。					
テキスト、教材 参考書	事前に読んでおく参考書、文献： 今村嘉雄 編集『日本武道大系』(同朋舎) その他適宜資料等を配布する。					
履修条件・ 関連科目	武道の経験を有する者	備考(教員メッ セージ含む)				
オフィス・アワー	随時：506研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前阪 茂樹	ガイダンス、授業の進め方				
2	"	日本武道史の概説(原始～古代)			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
3	"	日本武道史の概説(中世)			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
4	"	日本武道史の概説(近世)			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
5	"	日本武道史の概説(近代～現代)			次回発表資料の作成(約3時間)	
6	"	発表「武道の歴史を俯瞰する」				
7	"	武道伝書に触れる1(五輪書)			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
8	"	武道伝書に触れる1(五輪書)			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
9	"	武道伝書に触れる1(五輪書)			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
10	"	武道伝書に触れる2(不動智神妙録)			授業内容の復習と予習	
11	"	武道伝書に触れる2(不動智神妙録)			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
12	"	武道伝書に触れる2(不動智神妙録)			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
13	"	武道伝書に触れる3(兵法家伝書)			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
14	"	武道伝書に触れる3(兵法家伝書)			本講義の振り返りと次回への準備(約1時間)	
15	"	武道伝書に触れる3(兵法家伝書)			本講義の振り返り(約30分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツパフォーマンス学特講		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	高橋 仁大・前田 明・金高 宏文・竹中 健太郎・藤井 雅文・山口 大貴・笹子 悠歩			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	<p>スポーツパフォーマンス学とは、スポーツ現場の実践知を記述・説明・予測・操作できるようにし、実践研究論文として学術的に形式化するための方法論を学ぶ学問である。自身でも実践研究の論文の作成ができるようになるため、当該研究の発表の場である『スポーツパフォーマンス研究』に掲載された過去の論文を購読し、それを題材として実践研究とは何か、またどのように論文をまとめるべきかについて理解を深める。</p> <p>【授業に含まれる活動】 ・・実施あり、×・・・実施なし、・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク()、ディスカッション・討論()、プレゼンテーション・発表()、フィールドワーク()</p>					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への積極的な参加態度および各授業者から提出された課題(5題×20点)の達成度から総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	<p>テキスト：『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版(2018) 参考書：『アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学』山本著(市村出版、2021)、『スポーツパフォーマンス研究』(http://www.sports-performance.jp/)にこれまでに掲載された研究論文とEditorial</p>					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	<p>随時 事前にアポイントをとること 高橋(SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室) 金高(大学院棟3階 4教員研究室) 竹中(研究棟5階507教員研究室) 藤井(研究棟8階804教員研究室) 山口(研究棟8階803教員研究室) 笹子(海洋スポーツセンターまたは大学院棟3階 3教員研究室) 前田(明)(研究棟4階405教員研究室)</p>					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高橋 仁大	スポーツパフォーマンス学の考え方			講義内容の予習と復習(1時間)	
2	"	スポーツパフォーマンス研究の実例(テニス)			講義内容の予習と復習(1時間)	
3	山口 大貴	スポーツパフォーマンス研究の実例(自転車競技ほか)			講義内容の予習と復習(1時間)	
4	"	スポーツパフォーマンス研究の実例(自転車競技ほか)			講義内容の予習と復習(1時間)	
5	"	スポーツパフォーマンス研究の実例(自転車競技ほか)			講義内容の予習と復習(1時間)	
6	金高 宏文	スポーツパフォーマンス研究の実例(陸上競技)			授業の振り返りと発表資料の作成(1時間)	
7	"	スポーツパフォーマンス研究の実例(コツ・カンの分析)			授業の振り返りと発表資料の作成(2時間)	
8	竹中 健太郎	スポーツパフォーマンス研究の実例(剣道)			講義内容の予習と復習(1時間)	
9	"	スポーツパフォーマンス研究の実例(武道)			講義内容の予習と復習(1時間)	
10	笹子 悠歩	スポーツパフォーマンス研究の実例(海洋スポーツほか)			講義内容の予習と復習(1時間)	
11	"	スポーツパフォーマンス研究の実例(海洋スポーツほか)			講義内容の予習と復習(1時間)	
12	"	スポーツパフォーマンス研究の実例(海洋スポーツほか)			講義内容の予習と復習(1時間)	
13	藤井 雅文	スポーツパフォーマンス研究の実例(野球ほか)			講義内容の予習と復習(1時間)	
14	"	スポーツパフォーマンス研究の実例(野球ほか)			講義内容の予習と復習(1時間)	
15	"	スポーツパフォーマンス研究の実例(その他・まとめ)			講義内容の予習と復習(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスサイエンス特講		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	中垣内 真樹・藤田 英二・沼尾 成晴・古瀬 裕次郎				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	運動が健康づくりの一助になるという考え方が支持され、中高齢者においても運動の効用が期待されている。しかし、加齢とともに体力が低下することは明らかであり、効果に個人差が大きいことも知られている。本講義では、中高齢者に対して運動による健康づくり、自立維持の視点から先行研究を総括するとともに至適な運動方法についてその具体的なあり方を考究する。運動による健康づくりに関わる要因について分析できるようになる。また、運動の有用性や限界に対する理解と高齢者を含む長いスパンの中での健康管理のあり方を考えることができるようになる。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%)を総合的に評価する。					
成績評価の基準	学習内容のプレゼンテーションとディスカッションを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて配布する、もしくは指示する。 参考書:「健幸華齢のためのスマートライフ」(公益財団法人日本スポーツ協会監修,(株)サンライフ企画,2019年,3080円)					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時 中垣内 研究棟407研究室 沼尾 研究棟406研究室 藤田 スポーツトレーニング教育研究センター2階 できれば事前に連絡(fujita@nifs-k.ac.jp)のこと 古瀬 研究棟509研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中垣内 真樹 沼尾 成晴	日本の健康づくり施策、介護予防施策の現状について			文献の予習・復習(1時間)	
2	"	減量に関する運動の効果について			文献の予習・復習(1時間)	
3	"	生活習慣病予防に関する運動の効果について			文献の予習・復習(1時間)	
4	"	中高齢者の身体機能に関する運動の効果について			文献の予習・復習(1時間)	
5	"	中高齢者の認知機能に関する運動の効果について			文献の予習・復習(1時間)	
6	藤田 英二	運度処方について			文献の予習・復習(1時間)	
7	"	健康づくりのためのレジスタンストレーニングについて			文献の予習・復習(1時間)	
8	"	健康作りのための有酸素運動について			文献の予習・復習(1時間)	
9	"	転倒予防のためのバランストレーニングについて			文献の予習・復習(1時間)	
10	"	骨の健康のための運動について			文献の予習・復習(1時間)	
11	古瀬 裕次郎	ヘルスサイエンス研究紹介 (運動疫学)			内容の予習・復習(1時間)	
12	"	ヘルスサイエンス研究紹介 (嗅覚)			内容の予習・復習(1時間)	
13	"	世界のヘルスサイエンス研究の紹介と解説			紹介する資料の予習・復習(1時間)	
14	"	研究を提案する			指示された研究資料の作成(1時間)	
15	"	自身の考えた研究の提案			自身が紹介する資料の予習・復習(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ医科学特講		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	藤井 康成・樋口 公嗣・廣津 匡隆				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツが心臓に及ぼす影響を理解するために必要な心電図, 心エコー図の基礎と応用を講義する。(対話・討論型)					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(80%) レポート等の提出状況(20%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記を合計して判断する。					
テキスト、教材 参考書	心電図を学ぶ人のために, 心電図のABC, 心エコー図のABC					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	随時、保健管理センター					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	樋口 公嗣	心電図を学ぶための心臓の解剖と生理・心臓の電気的活動 正常心電図：心電図波形の名称と意義・正常波形・正常値 心臓電気軸と臨床的意義：軸偏位の定め方			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
2	"	左胸心および心房負荷：心房負荷心電図の名称と分類 心室肥大心電図：左室肥大・右室肥大・両室肥大 脚ブロック：脚ブロックの分類 右脚ブロック・左脚ブロック			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
3	"	冠不全、心筋虚血の心電図：ST, T波の異常・運動負荷心電図など 心筋梗塞の特徴的心電図所見：異常Q波・ST上昇・冠性丁波			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
4	"	電解質異常：カリウムと心電図・カルシウムと心電図			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
5	"	不整脈：不整脈の分類・正常洞調律および洞リズムの異常 洞不全症候群および上室性期外収縮			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
6	"	心室性期外収縮：成因・臨床的意義・心電図所見 発作性上室頻拍・心房細動・心房粗動・心室頻拍・心室細動			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
7	"	房室ブロック：分類と心電図所見 心室早期興奮症候群：概念・心電図所見・WPW・LGL			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
8	"	スポーツマンによく見られる心電図所見			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
9	"	特殊心電図：ホルター心電図法・ベクトル心電図・ヒス束電位図法・ 体表面電位図			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
10	"	ビデオによる心電図の総復習			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
11	"	心エコー図の基礎(原理・装置)Mモード法, 断層法, ドプラー法			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
12	"	心機能評価; ドプラー法による心拍出量測定など			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
13	"	頸動脈などの血管エコー心機能評価; ドプラー法による心拍出量測定など			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
14	"	上腕動脈の内皮機能検査			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
15	"	ビデオによる心エコー図の総復習			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ生理学特講		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	堀内 雅弘・田巻 弘之・與谷 謙吾				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	運動・トレーニングの実施や特殊環境への曝露により、生体の諸生理機能は合目的に亢進または抑制され、恒常性を維持しようと作用する。このような生理応答や適応は、骨・筋・神経などの運動器に対する局所的な変化として生じる場合と、全身の諸機能が相互に連携して発現する場合がある。本科目では、運動刺激や不動によって生じる運動器の組織・機能レベルの変化に着目しつつ、身体運動やトレーニング、特殊環境に対する生理応答・適応のメカニズムを理解する。さらに、病理画像や図表、研究資料などをもとに議論を行い、スポーツ生理学に関する幅広い理解を深めるとともに、未解明の課題について考察する力を養う。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(50%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	担当する発表の内容、質疑応答状況により点数を加算して総合評価する。					
テキスト、教材 参考書	(参考書) 1.「神経科学」加藤宏司(監訳)、西村書店、ISBN: 978-4890133567. 2.「関節可動域制限 病態の理解と治療の考え方」沖田実(編)、三輪書店、2013、ISBN: 978-4895904353. 3. Skeletal Muscle Damage and Repair Tiidus, P. M. (Ed.), Human Kinetics, 2008, ISBN: 978-0736058674. 4.「筋の科学事典 構造・機能・運動」福永哲夫(編)、朝倉書店. 5.「計測法入門 計り方、計る意味」内山靖・小林武・間瀬教史(編)、協同医書出版社. 6.「これから論文を書く若者のために(大改訂増補版)」酒井聡樹(著)、共立出版. 7.「入門運動神経生理学」市村出版. 8.「運動生理学の基礎と発展」春日規克・竹倉宏明(編著)、フリースペース. 9.「運動生理学概論」浅野勝巳(編著)、杏林書院. 10.「新運動生理学(上・下巻)」宮村実晴(編)、真興交易(株)医書出版部.					
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッ セージ含む)				
オフィス・アワー	堀内: 随時(事前にメールで連絡を頂ければ有難いです) 研究棟3階 303研究室 mhoruichi@nifs-k.ac.jp 田巻: 随時(事前にメールで連絡を頂ければ有難いです) 研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 與谷: 随時(事前にメールで連絡を頂ければ有難いです) 研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	堀内 雅弘	運動と呼吸(酸素摂取動態や二酸化炭素排出動態について)			運動と呼吸について資料をまとめる。(1時間)	
2	"	運動と循環(運動時の中心循環・血圧応答・脳循環について)			運動と循環について資料をまとめる。(1時間)	
3	"	運動トレーニングの効果(トレーニング強度の影響について)			運動トレーニングについて資料をまとめる。(1時間)	
4	"	特殊環境下でのスポーツ活動に対する身体応答(暑熱・寒冷・低酸素環境について)			運動と環境について資料をまとめる。(1時間)	
5	"	運動生理学分野の最新トピック情報と課題			授業全体を通じて学んだことを参考に実験をデザインしてみる。(2時間)	
6	田巻 弘之	骨格筋の萎縮と運動刺激の効果 - 筋収縮と生理活性物質のはたらき			参考書2の第2章を一読し、筋収縮やマイオカインに関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
7	"	筋損傷と再生、筋肥大、筋痛との関連性 損傷と炎症は悪か?			参考書3を一読し、筋損傷と再生、痛みに関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
8	"	腱及び靭帯の粘弾性と運動・不動及び加齢変化の特徴 - 伸びやすい/伸びにくいを決めるもの -			参考書2の第2章第4節を一読し、腱・靭帯の特性に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
9	"	骨及び軟骨の微細構造と力学的刺激の重要性、関節の痛み - 使いすぎても壊れるが、使わなくても壊れる -			参考書2の第2章第5節を一読し、関節構成体に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
10	"	不動、加齢による関節可動域制限と運動・物理療法の効果 - ストレッチングや電気磁気刺激処方の効き目 -			参考書2の第3章を一読し、筋骨格系に対する運動・物理療法の効果に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)	
11	與谷 謙吾	随意運動に関わる基本的神経機構: 中枢・末梢神経系の可塑性			参考書7の第1章を一読し、神経系に関する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。(2時間)	
12	"	随意運動: 熟練スポーツ動作の神経-筋活動			参考書7の第17章を一読し、筋活動を主とする文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。(2時間)	
13	"	運動学習に関する神経生理学			参考書7の第2章を一読し、運動学習に関する高次中枢系の文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。(2時間)	
14	"	敏捷性に関わる神経制御機構: 反応時間の短縮と遅延について			参考書7の第20章を一読し、反応時間に関する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。(2時間)	
15	"	運動イメージ中の運動野の興奮性			参考書7の6-10部を一読し、イメージに関する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。(2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特講		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	高井 洋平・赤澤 暢彦				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	本講義は、トレーニングが身体に及ぼす影響について、トレーニングの本質および特異性を理解することを目指す。また、種々のトレーニング理論に関する知識を整理し、それらを合理的に統合できる能力を身に付ける。					
成績評価の方法	授業への取り組み状況、発表の内容と討論への参加状況を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に判断・評価する。					
テキスト、教材 参考書	適宜、資料を配布する。					
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッ セージ含む)				
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 (高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp) (赤澤：研究棟3階・302教員研究室、akazawa@nifs-k.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	赤澤 暢彦	トレーニングを科学する			授業の復習(1時間)	
2	"	トレーニングの基礎			授業の予習および復習(1時間)	
3	"	トレーニングと動脈硬化			授業の予習および復習(1時間)	
4	"	トレーニングと認知症			授業の予習および復習(1時間)	
5	"	トレーニングと腸内細菌			授業の予習および復習(1時間)	
6	"	コンディショニングの基礎			授業の予習および復習(1時間)	
7	"	コンディションと認知機能			授業の予習および復習(1時間)	
8	"	コンディションと腸内細菌			授業の予習および復習(1時間)	
9	高井 洋平	トレーニングと科学とは？			授業の復習(1時間)	
10	"	トレーニング効果を評価する手法(筋力測定)			授業の予習および復習(1時間)	
11	"	トレーニング効果を評価する手法(筋電図測定)			授業の予習および復習(1時間)	
12	"	トレーニング効果を評価する手法(力と筋電図の分析)			授業の予習および復習(1時間)	
13	"	トレーニング効果を評価する手法(力 速度特性の測定)			授業の予習および復習(1時間)	
14	"	トレーニング効果を評価する手法(床反力の測定)			授業の予習および復習(1時間)	
15	"	トレーニング効果を評価する手法(力 速度特性の測定)			授業の予習および復習(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特講		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	宮崎 輝光			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	生物の運動を力学的に解析するバイオメカニクスは、スポーツ指導や臨床現場など、幅広い領域で活用される基礎分野である。本授業では、動作分析の基礎について学ぶ。特に、実際のデータを基に議論を行うことや、座学・実習を通じ、人の身体運動を分析する際の着眼点を学ぶ。なお、履修生のレベルと理解に応じて、適宜進度や内容を変更する。					
成績評価の方法	学期末試験の成績 (0%) 授業への取り組み状況 (10%) レポート等の提出状況 (90%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポートによって評価する。議論の質および態度も評価する。					
テキスト、教材 参考書	『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良, 藤井範久, 朝倉書店 (2002) 『バイオメカニクス 人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀, 吉岡伸輔, ラウンドフラット (2011)					
履修条件・ 関連科目	スポーツバイオメカニクス特講演習とセットで受講することが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	・授業で用いる数学・力学に関する知識が不足する場合は、授業時間外に各自で補うこと。 ・初回授業時までに各自MathWorksアカウント(スポ情HP参照)を作成しておくこと。			
オフィス・アワー	随時					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	宮崎 輝光	バイオメカニクス分野の研究 インTRODクシヨN			授業内容についての予習・復習 (1時間)	
2	"	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法			Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること (1時間)。	
3	"	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法			Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること (1時間)。	
4	"	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法			Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること (1時間)。	
5	"	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法			Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること (1時間)。	
6	"	スポーツバイオメカニクス分野における研究方法			Kinematics・Kinetics的分析について予習・復習すること (1時間)。	
7	"	スポーツ動作測定のための実験方法			三次元動作, 地面反力, 表面筋電図の測定・分析方法を予習・復習すること (1時間)。	
8	"	スポーツ動作測定のための実験方法			三次元動作, 地面反力, 表面筋電図の測定・分析方法を予習・復習すること (1時間)。	
9	"	スポーツ動作測定のための実験方法			三次元動作, 地面反力, 表面筋電図の測定・分析方法を予習・復習すること (1時間)。	
10	"	スポーツ動作測定のための実験方法			三次元動作, 地面反力, 表面筋電図の測定・分析方法を予習・復習すること (1時間)。	
11	"	スポーツ動作に関する研究紹介			対象となるスポーツ動作を国内外の先行研究を調べ, 理解する (1時間)。	
12	"	スポーツ動作に関する研究紹介			対象となるスポーツ動作を国内外の先行研究を調べ, 理解する (1時間)。	
13	"	スポーツ動作に関する研究紹介			対象となるスポーツ動作を国内外の先行研究を調べ, 理解する (1時間)。	
14	"	スポーツ動作に関する研究紹介			対象となるスポーツ動作を国内外の先行研究を調べ, 理解する (1時間)。	
15	"	バイオメカニクスによるスポーツパフォーマンス研究への貢献			授業内容についての予習・復習 (1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ生化学特講		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	吉田 剛一郎			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	分子と化学反応を基礎にして、生命現象を考えるのが生化学である。運動にともなうからだの変化について、栄養素の異化によるエネルギー代謝をテーマに、生化学、分子生物学的な面から関連づけて講じる。最終的に、生体内代謝に基づく科学的な考察が行えることを目標とする。					
成績評価の方法	授業への取り組み状況(70%) レポート等の提出状況(30%)を総合的に評価する。					
成績評価の基準	理解度を基準とする。					
テキスト、教材 参考書	入村達郎 訳『ストライヤー生化学』(トッパン) 上代淑人 訳『ハーバー生化学』(丸善)					
履修条件・ 関連科目	とくになし。	備考(教員メッ セージ含む)	必要に応じて論文抄読会を行う。			
オフィス・アワー	随時307研究室・メール。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	吉田 剛一郎	運動生化学特講を学ぶための基礎知識(細胞の構造と機能など)			細胞の構造と機能を復習する(1時間)。	
2	"	糖質(単糖・オリゴ糖・多糖)			単糖・オリゴ糖・多糖を復習する(1時間)。	
3	"	脂質(単純脂質・複合脂質・誘導脂質)			単純脂質・複合脂質・誘導脂質を復習する(1時間)。	
4	"	タンパク質(アミノ酸・構造と分類)			アミノ酸・構造と分類を復習する(1時間)。	
5	"	核酸(DNA・RNA)			DNA・RNAを復習する(1時間)。	
6	"	水(水分出納・酸塩基平衡)			水分出納・酸塩基平衡を復習する(1時間)。	
7	"	無機質(ミネラル)			ミネラルを復習する(1時間)。	
8	"	血液と尿(血漿と血球・尿の生成)			血漿と血球・尿の生成を復習する(1時間)。	
9	"	ホルモンとサイトカイン(血糖・血圧・食欲の調節など)			血糖・血圧・食欲の調節を復習する(1時間)。	
10	"	代謝のあらまし・酵素(触媒作用と逸脱酵素)			酵素の触媒作用と逸脱酵素を復習する(1時間)。	
11	"	ビタミンと補酵素(生理作用と欠乏症)			ビタミンの生理作用と欠乏症を復習する(1時間)。	
12	"	糖質代謝(解糖系・クエン酸回路・電子伝達系・糖新生経路など)			解糖系・クエン酸回路・電子伝達系・糖新生経路を復習する(1時間)。	
13	"	脂質代謝(機能する脂質・酸化)			機能する脂質・酸化を復習する(1時間)。	
14	"	タンパク質代謝(アミノ酸の利用・尿素回路)			アミノ酸の利用・尿素回路を復習する(1時間)。	
15	"	遺伝情報(遺伝子のはたらきとタンパク質合成)			遺伝子のはたらきとタンパク質合成を復習する(1時間)。	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学特講		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	石澤 里枝			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-	受け入れ人数	-	
授業の概要 及び達成目標	スポーツ栄養学に関する基礎的知見および最新の文献に基づき講義や議論を行う。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(70%) レポート等の提出状況(30%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、レポートの内容を重視する。					
テキスト、教材 参考書	資料を適宜、配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)	必要に応じて発表を行う。			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	石澤 里枝	アスリートのエネルギー必要量と消費量	アスリートのエネルギー必要量と消費量を復習する。(1時間)			
2	"	糖質と身体活動との関係	糖質と身体活動との関係を復習する。(1時間)			
3	"	栄養と運動時の血圧	栄養と運動時の血圧を復習する。(1時間)			
4	"	脂質と身体活動との関係	脂質と身体活動との関係を復習する。(1時間)			
5	"	スポーツ栄養に関する英語論文の抄読会	スポーツ栄養に関する英語論文の抄読会を復習する。(1時間)			
6	"	アメリカスポーツ医学会によるガイドライン：糖質	アメリカスポーツ医学会によるガイドライン：糖質を復習する。(1時間)			
7	"	タンパク質と身体活動との関係	タンパク質と身体活動との関係を復習する。(1時間)			
8	"	アメリカスポーツ医学会によるガイドライン：タンパク質	アメリカスポーツ医学会によるガイドライン：タンパク質との関係を復習する。(1時間)			
9	"	ミネラルと運動パフォーマンス	ミネラルと運動パフォーマンスを復習する。(1時間)			
10	"	水分補給と運動パフォーマンス	水分補給と運動パフォーマンスを復習する。(1時間)			
11	"	ビタミンと運動パフォーマンス	ビタミンと運動パフォーマンスを復習する。(1時間)			
12	"	腸内細菌と運動パフォーマンス	腸内細菌と運動パフォーマンスを復習する。(1時間)			
13	"	スポーツ栄養に関する英語論文の抄読会	スポーツ栄養に関する英語論文の抄読会を復習する。(1時間)			
14	"	スポーツ栄養に関する英語論文の抄読会	スポーツ栄養に関する英語論文の抄読会を復習する。(1時間)			
15	"	まとめ	まとめを復習する。(1時間)			

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講 A		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	坂本 将基・井福 裕俊				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツや運動を身体教育として捉え、かつそれらの分野に関する研究の視点を得るためには、スポーツや運動に対する学際的な理解が重要となる。本授業では、随意運動制御、運動時の循環調節などについて概説し、幅広く理解できるようになる。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(40%) レポート等の提出状況(60%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート課題の成績と授業への取り組みから総合的に判断する。					
テキスト、教材 参考書	参考資料等は事前に配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)				
オフィス・アワー	担当教員ごとに要予約(相談)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	坂本 将基 井福 裕俊	オリエンテーション				
2	坂本 将基	随意運動制御の概説(1) 脊髄			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
3	"	随意運動制御の概説(2) 小脳			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
4	"	随意運動制御の概説(3) 大脳基底核			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
5	"	随意運動制御の概説(4) 骨格筋			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
6	"	随意運動制御の概説(5) 大脳皮質1			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
7	"	随意運動制御の概説(6) 大脳皮質2			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
8	"	随意運動制御の概説(7) 運動学習			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
9	井福 裕俊	運動時の循環調節の概説(1) 心臓			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
10	"	運動時の循環調節の概説(2) 血圧			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
11	"	運動時の循環調節の概説(3) 微小循環			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
12	"	運動時の循環調節の概説(4) 圧受容器反射			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
13	"	運動時の循環調節の概説(5) セントラルコマンド			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
14	"	運動時の循環調節の概説(6) 運動昇圧反射			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
15	坂本 将基 井福 裕俊	総合討論				

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講 B		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	塩瀬 圭佑			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-	受け入れ人数	-	
授業の概要 及び達成目標	本特講では、健康の保持増進およびスポーツパフォーマンス向上のための運動と食事の重要性を理解することを目的とする。特に、運動や食事が代謝機能や身体組成へ及ぼす影響や、健康づくりや競技パフォーマンス向上のための運動方法について学習する。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	健康の保持増進およびスポーツパフォーマンス向上のための運動と食事の重要性について説明できる。					
テキスト、教材 参考書	必要に応じて資料を配布・紹介する					
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)				
オフィス・アワー	適宜指定する					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	塩瀬 圭佑	オリエンテーション			講義内容の復習、予習(1時間)	
2	"	エネルギー代謝			講義内容の復習、予習(1時間)	
3	"	エネルギー出納I(エネルギー摂取)			講義内容の復習、予習(1時間)	
4	"	エネルギー出納II(エネルギー消費)			講義内容の復習、予習(1時間)	
5	"	エネルギー代謝評価I(運動時のエネルギー)			講義内容の復習、予習(1時間)	
6	"	エネルギー代謝評価II(日常生活のエネルギー)			講義内容の復習、予習(1時間)	
7	"	身体組成			講義内容の復習、予習(1時間)	
8	"	身体組成評価I(身体密度法)			講義内容の復習、予習(1時間)	
9	"	身体組成評価II(キャリバー法・BIA法)			講義内容の復習、予習(1時間)	
10	"	健康のための運動I(体力評価と運動処方)			講義内容の復習、予習(1時間)	
11	"	健康のための運動II(ニコニコベース)			講義内容の復習、予習(1時間)	
12	"	健康のための食事			講義内容の復習、予習(1時間)	
13	"	競技パフォーマンスとトレーニング			講義内容の復習、予習(1時間)	
14	"	競技パフォーマンスと食事			講義内容の復習、予習(1時間)	
15	"	まとめ			レポート課題(3時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ人文学特講		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	中村 勇・森 克己・山田 理恵				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-	受け入れ人数	-	
授業の概要 及び達成目標	本講義では、スポーツ人文学について、主にスポーツ・武道史、運動文化、スポーツ法・倫理をテーマにした研究成果を購読・議論する。これによりスポーツ人文学の専門的知識と研究方法を習得することができる。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	課題の成績、授業に対する積極的な取組方を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書：森克己ほか著「標準テキスト・スポーツ法学」(エイデル研究所) 小笠原正・諏訪伸夫監修、森克己ほか著「スポーツのリスクマネジメント」(ぎょうせい) 千葉正士ほか著「スポーツ法学入門」(体育施設出版) 『成田文庫』記念論集刊行会(編)『スポーツ文化研究のシナジー 体育・スポーツの新たなステージへの展望』(不昧堂出版、2025年) その他の参考書は、適宜紹介する。資料は、適宜配付する。					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)				
オフィス・アワー	中村勇：水曜日11:00-12:00(503教室) 山田・森：教務課教育企画係を通して調整する					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	中村 勇	オリエンテーション：スポーツ人文学の導入	授業内容の振り返り学習(30分以上)			
2	"	武道史研究の目的と意義	授業内容の振り返り学習と予習(30分以上)			
3	"	武道の国際化と課題	授業内容の振り返り学習と予習(30分以上)			
4	山田 理恵	スポーツ史研究の目的と意義	授業内容の振り返り学習と予習(30分以上)			
5	"	スポーツ史研究の対象と問題意識	授業内容の振り返り学習と予習(30分以上)			
6	"	スポーツ史研究と史料	授業内容の振り返り学習と予習(30分以上)			
7	森 克己	スポーツ法・倫理の方法学	授業内容の振り返り学習と予習(30分以上)			
8	"	スポーツ法学及びスポーツの倫理に関する研究の意義(総論)	授業内容の振り返り学習と予習(30分以上)			
9	"	スポーツ法学の体系・法源	授業内容の振り返り学習と予習(30分以上)			
10	"	スポーツ法学の体系・法源	授業内容の振り返り学習と予習(30分以上)			
11	"	スポーツ基本法の概要	授業内容の振り返り学習と予習(30分以上)			
12	"	スポーツにおけるチャイルド・プロテクション	授業内容の振り返り学習と予習(30分以上)			
13	"	スポーツにおけるチャイルド・プロテクション	授業内容の振り返り学習と予習(30分以上)			
14	"	スポーツにおけるアスリート保護の国際的取組の現状と課題	授業内容の振り返り学習と予習(30分以上)			
15	"	スポーツにおけるアスリート保護の国際的取組の現状と課題	授業内容の振り返り学習と予習(30分以上)			

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会科学特講		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	北村 尚浩・隅野 美砂輝・坂口 俊哉・日下 知明・棟田 雅也・関 朋昭			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	<p>本授業は、スポーツに関する諸現象を社会学、政策学、経営学、生涯スポーツ学など多様な社会科学の視点から入門的に学ぶ基礎科目である。担当教員の専門性を生かし、スポーツツーリズム、政策学、経営学、組織論、レジャー・レクリエーション研究など幅広い内容を扱う。これにより、受講生は多様なアプローチを比較検討し、自身の問題関心に適した視点を見いだすことで、応用科目や修士論文につながる基盤を形成する。</p> <p>1. スポーツに関する諸現象を、多様な社会科学ディシプリンの基礎的視点から理解できるようになる。 2. 各ディシプリンの特色やアプローチの違いを把握し、比較できるようになる。 3. 幅広い視点を踏まえて、自身の研究関心を整理し、応用科目や修士論文への方向性を見いだすことができる。</p>					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート課題及び授業への取組を重視する。					
テキスト、教材 参考書	授業時に配布する					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)				
オフィス・アワー	要アポイントメント 北村(610研究室) 日下(607研究室)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	授業ガイダンス、スポーツと社会			課題文献の抄読(1.5時間)	
2	"	体育・スポーツ社会学研究			課題文献の抄読(1.5時間)	
3	日下 知明	スポーツ政策のプロセス			課題文献の抄読(1.5時間)	
4	"	スポーツ政策の主体			課題文献の抄読(1.5時間)	
5	"	スポーツ政策と価値・規範			課題文献の抄読(1.5時間)	
6	棟田 雅也	スポーツマネジメントによるまちづくり			課題文献の抄読(1.5時間)	
7	"	スポーツツーリズムマネジメント			課題文献の抄読(1.5時間)	
8	関 朋昭	経営学と経済学			課題文献の抄読(1.5時間)	
9	"	スポーツと組織理論			課題文献の抄読(1.5時間)	
10	"	スポーツと経営理論			課題文献の抄読(1.5時間)	
11	北村 尚浩	ライフステージとスポーツ			課題文献の抄読(1.5時間)	
12	"	生涯スポーツ学研究			課題文献の抄読(1.5時間)	
13	坂口 俊哉	レジャー・レクリエーション研究			キー概念の解説をする。課題：関連文献の抄読(1.5時間)	
14	"	アウトドアスポーツ研究			研究トピックの紹介。課題：関連文献の抄読(1.5時間)	
15	"	野外教育研究			研究トピックの紹介。課題：関連文献の抄読(1.5時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特講		授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	森 司朗・中本 浩揮・幾留 沙智				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツ、武道、体育及び健康づくりの分野における教育研究能力及び高度の専門性を要する職業等に必要な基礎的能力を養うにあたり、スポーツ心理学的知識や視点の習得は必要不可欠であろう。そこで本授業では、主にスポーツパフォーマンスの熟達や発揮に関わるスポーツ心理学の専門的知識を包括的に教授する。本授業の達成目標は、自身の研究活動に活かすことのできるスポーツ心理学的な知識や視点を獲得することにある。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組みとして、質問への応答、課題への積極的な取り組み、討議への積極的な参加を重視する。					
テキスト、教材 参考書	適宜配布する					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	随時だが、まずはメールにて問合せをすることが望ましい。 森司朗 (moris@nifs-k.ac.jp) 中本浩揮 (nakamoto@nifs-k.ac.jp) 幾留沙智 (ikudome@nifs-k.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中本 浩揮	スポーツにおける熟達化研究			講義内容のまとめ(1時間)	
2	"	他者の動きの知覚とスポーツパフォーマンス			講義内容のまとめ(1時間)	
3	"	他者の動きの知覚と運動学習			講義内容のまとめ(1時間)	
4	"	物体の動きの知覚とスポーツパフォーマンス			講義内容のまとめ(1時間)	
5	"	スポーツ心理学の社会実装(1)			講義内容のまとめ(1時間)	
6	幾留 沙智	練習方略と運動学習			講義内容のまとめ(1時間)	
7	"	動機づけと運動学習			講義内容のまとめ(1時間)	
8	"	自己調整学習という学習の質			講義内容のまとめ(1時間)	
9	"	感情コントロールと実力発揮			講義内容のまとめ(1時間)	
10	"	スポーツ心理学の社会実装(2)			コラム記事の作成(2時間)	
11	森 司朗	運動と認知-子どもの運動発達の観点から-(1)			講義内容のまとめ(1時間)	
12	"	運動と認知-子どもの運動発達の観点から-(2)			講義内容のまとめ(1時間)	
13	"	こころの健康			講義内容のまとめ(1時間)	
14	"	障害者スポーツとスポーツ心理学			講義内容のまとめ(1時間)	
15	"	スポーツ心理学の社会実装(3)			講義内容のまとめ(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ教育学特講	授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	梶 ちか子			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	<p>本授業では、体育科教育学を基盤として、学校体育における授業づくり、子どもへの運動指導、学習評価、教材開発、および教育実践研究の基本的な考え方を学ぶ。特に、学習指導要領を踏まえた単元計画、授業設計、指導と評価の一体化、子どもの学びの見取り、実践研究の方法論に着目し、学校体育研究を構想するための理論的基盤を形成する。あわせて、近年の体育授業研究において重要性を増している共生・包摂の視点、ICT活用、デザイン研究の基礎についても扱う。</p> <p>【授業に含まれる活動】 ・ ・ ・実施あり、x ・ ・ ・実施なし、 ・ ・ ・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク()、ディスカッション・討論()、プレゼンテーション・発表()、フィールドワーク()</p>				
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。				
成績評価の基準	学校体育および体育科教育学に関する基礎概念を理解し、授業内での討論・発表に主体的に参加できることを求める。また、文献講読、授業分析、単元構造図作成、最終レポートにおいて、理論と実践を関連付けながら自らの考えを論理的に記述・プレゼンテーションできているかを評価する。				
テキスト、教材 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領 体育編 ・中学校学習指導要領解説 保健体育編 ・高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 ・体育科教育学、スポーツ教育学、授業研究、教師教育、授業設計、学習評価、質的研究・量的研究・デザイン研究に関する文献 				
履修条件・ 関連科目	学校体育、保健体育科教育法、教育方法学等の基礎的知識を有していることが望ましい。 後期開講の「スポーツ教育学特講演習」と連続して履修することが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	講義だけでなく、文献講読、グループ討議、授業映像の分析、小課題の作成を含む。 学校体育に関する自身の関心テーマを明確にしながらか受講すること。		
オフィス・アワー	授業前後およびメールによる事前連絡の上、随時対応する(703研究室)。				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	梶 ちか子	ガイダンス：スポーツ教育学特講の目的と全体構成	シラバス確認、自身の研究関心の整理(120分)		
2	"	体育科教育学の対象と研究領域	体育科教育学の主要概念の整理(120分)		
3	"	学校体育の制度的基盤：学習指導要領と体育授業の目標	学習指導要領解説の該当箇所の要点まとめ(120分)		
4	"	体育授業における資質・能力と内容構成	任意の領域・種目を選び、育成したい資質・能力を整理(120分)		
5	"	単元計画と授業設計の基本	1単元分の単元構造図・指導案を作成する(120分)		
6	"	子どもへの運動指導の考え方：発達、つまり、支援	発達段階に応じた指導上の配慮を整理(120分)		
7	"	指導と評価の一体化：形成的評価、パフォーマンス評価等	授業で扱った評価法を比較し、特徴をまとめる(120分)		
8	"	体育授業における教材研究と教材開発	関心領域の教材例を収集し、教材分析シートを作成(120分)		
9	"	授業記録と授業分析の方法	授業映像または授業記述を用いての簡易分析(120分)		
10	"	共生・包摂の視点からみた学校体育	関連論文を1本読み、示唆を整理(120分)		
11	"	共生・包摂の視点からみた学校体育	共生・包摂の視点から指導案を作成する(120分)		
12	"	ICT活用と体育授業研究	体育におけるICT活用事例を収集し、利点と課題をまとめる(120分)		
13	"	教育実践研究の方法：実践研究とデザイン研究の基礎	自分の関心テーマを実践研究として構想するメモを作成(120分)		
14	"	教育実践研究の方法：研究課題の設定と研究デザイン	研究目的・方法・期待される成果を整理した草案を提出する(120分)		
15	"	総括：学校体育研究としての課題設定と今後の展望	最終レポート提出(授業内容を踏まえた研究構想)(120分)		

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ情報学特講	授業形態	講義	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	和田 智仁			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	現代のスポーツにおいて、パフォーマンス向上におけるデータの利活用やデジタル技術の活用は欠かせないものになっている。2025年のスポーツ基本法改正においても、スポーツの推進に寄与する情報通信技術の活用に関する規定が加えられ、国や地方公共団体には施策の推進が、スポーツ団体には情報通信技術の活用が示された。 本講義では、スポーツにおけるデータおよび情報通信技術の活用について、特にパフォーマンス向上を中心に、計測、分析、可視化、理解など、先行研究や実践事例を通じて学ぶ。さらに、傷害予防、コンディショニング、戦術分析、指導支援への応用、データ活用に伴う課題、倫理的配慮についても学ぶ。				
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(40%) レポート等の提出状況(60%) を総合的に評価する。				
成績評価の基準	授業で行うディスカッションへの参加状況、授業時に提示する課題の実施状況、理解度などから総合的に判断する。				
テキスト、教材 参考書	『コーチングのためのバイオメカニクス関連機器の活用ガイドライン - 位置とスピードの計測器を中心に - 』, ハイパフォーマンススポーツセンター / 国立スポーツ科学センター, https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/Portals/0/resources/hpsc/guidebook/bio-guideline-r.pdf				
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	受講生の専門性などを鑑み、一部の内容を変更することがある		
オフィス・アワー	事前にメールで予約をお願いします				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	和田 智仁	ガイダンス：スポーツ情報学について	「スポーツ基本法」関連部分の予習(1時間)		
2	"	スポーツにおける情報	関連文献の調査(2時間)		
3	"	スポーツの計測技術とセンシング	各自が携わる競技での事例調査(2時間)		
4	"	スポーツの計測技術とセンシング	各自が携わる競技での事例調査(2時間)		
5	"	スポーツデータ分析の基礎	授業で提示する資料を使った予習(2時間)		
6	"	スポーツデータの可視化	関連文献の調査(2時間)		
7	"	競技パフォーマンス分析	授業で提示する資料を使った予習(2時間)		
8	"	競技パフォーマンス分析	授業で提示する資料を使った予習(2時間)		
9	"	競技パフォーマンス分析	授業で提示する資料を使った予習(2時間)		
10	"	コンディショニング・傷害予防と情報活用	関連文献の調査(2時間)		
11	"	コーチング・指導支援と情報活用	関連文献の調査(2時間)		
12	"	スポーツ現場における情報活用	授業で提示する資料を使った予習(2時間)		
13	"	スポーツ教育における情報活用	授業で提示する資料を使った予習(2時間)		
14	"	スポーツデータ活用の課題と倫理	授業で提示する資料を使った予習(2時間)		
15	"	まとめ	最終課題の作成(2時間)		

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講演習(陸上競技(トラック))	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	永原 隆・吉塚 一典			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	1	受け入れ人数	若干名
授業の概要 及び達成目標	陸上競技トラック・ロード種目のコーチング場面につながるさまざまな知見を取り上げ、議論していくことにより、多角的で体系的にコーチング論を整理することを、本授業の目的とする。このことにより、陸上競技トラック・ロード種目のコーチングにおける高度なコーチングの基礎を身に付けることが期待される。				
成績評価の方法	学期末試験の成績(0%) 授業への取り組み状況(80%) レポート等の提出状況(20%) を総合的に評価する。				
成績評価の基準	各授業での発表やディスカッションの内容およびレポートの内容を総合的に評価する。				
テキスト、教材 参考書	授業時間毎に必要なに応じて資料等を配付する。				
履修条件・ 関連科目	陸上競技のトラック・ロード種目を専門とする者。 競技者として、研究対象としてのいずれか。	備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	永原：随時、大学院棟3階研究室1 吉塚：随時、研究棟7階701教員室				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	永原 隆 吉塚 一典	オリエンテーション、陸上競技のコーチングについて			
2	"	陸上競技中距離走についての先行研究等を探る	事前に図書館等で興味のある文献等を探す(2時間)		
3	"	陸上競技中距離走の先行研究等についてまとめる	事前に図書館等で興味のある文献等を探す(1時間)		
4	"	陸上競技中距離走の先行研究等について議論する	議論に基づく内容をまとめる(1時間)		
5	"	陸上競技長距離走についての先行研究等を探る	事前に図書館等で興味のある文献等を探す(2時間)		
6	"	陸上競技長距離走の先行研究等についてまとめる	事前に図書館等で興味のある文献等を探す(1時間)		
7	"	陸上競技長距離走の先行研究等について議論する	議論に基づく内容をまとめる(1時間)		
8	"	陸上競技中長距離走のコーチング	事前に図書館等で興味のある文献等を探す(2時間)		
9	"	陸上競技短距離走コーチングのための運動構造理解	事前に図書館等で興味のある文献等を探す等		
10	"	陸上競技短距離走コーチングのための科学的基礎	事前に図書館等で興味のある文献等を探す等		
11	"	陸上競技短距離走コーチングのためのトレーニング手段と方法	事前に図書館等で興味のある文献等を探す等		
12	"	陸上競技短距離走コーチングのためのトレーニング計画	事前に図書館等で興味のある文献等を探す等		
13	"	陸上競技トラック種目におけるコーチング方法を発表し、ディスカッションする	事前にパワーポイントで資料を作成しておく(2時間)		
14	"	陸上競技トラック種目におけるコーチング方法を発表し、ディスカッションする	事前にパワーポイントで資料を作成しておく(2時間)		
15	"	陸上競技トラック種目におけるコーチング方法を発表し、ディスカッションする	事前にパワーポイントで資料を作成しておく(2時間)		

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講演習(陸上競技(フィールド))	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ実践科学)
担当教員名	小森 大輔			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	競技コーチングにおいては、コーチング実践の場における多角的・体系的アプローチが必要となる。本授業では、主に陸上競技のフィールド種目を題材にして、試合で結果を出すためのトレーニングやコンディショニングをどのように考えるか、また、体力並びに技術トレーニングの方法論などについて教授する。さらに、コーチング実践の場における様々な取り組みについて具体例をもとに講義し、コーチング体験並びに経験を通して発生した諸問題を論考していく。これらにより、陸上競技フィールド種目のコーチングを多角的・体系的に捉え、高度なコーチングを実践していくための能力が身につくことが期待される。				
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。				
成績評価の基準	授業の中で行われた発表や討論、さらには提出されたレポートなどをもちに、陸上競技フィールド種目を体系的に捉え、高度なコーチングを実践するための能力が身に付いているかを総合的に評価する。				
テキスト、教材 参 考 書	【参考書】1) スポーツ・トレーニング理論：村木征人著、ブックハウスエイチディ 2) 陸上競技のコーチング：金原勇著、大修館書店 3) 現代スポーツコーチング実践講座 2 陸上競技：大石三四郎・浅田隆夫著、ぎょうせい 4) その他必要に応じて講義毎に配布又は指示する。				
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)	レポート等の提出有り		
オフィス・アワー	小森：月曜日 13時～14時 研究棟8階805教員研究室				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	小森 大輔	授業のガイダンス(講義の概要、成績評価等)、陸上競技フィールド種目の特性	授業内容を復習(レポート等の作成)すると共に、次回の課題に対する予習(自分の考えなどをまとめる)をしておく。(1時間)		
2	"	試合で結果をだすために トレーニングの計画と評価	授業内容を復習(レポート等の作成)すると共に、次回の課題に対する予習(自分の考えなどをまとめる)をしておく。(1時間)		
3	"	試合で結果をだすために 試合に向けてのコンディショニング	授業内容を復習(レポート等の作成)すると共に、次回の課題に対する予習(自分の考えなどをまとめる)をしておく。(1時間)		
4	"	コーチングを知る 投擲種目における体力トレーニングについて	授業内容を復習(レポート等の作成)すると共に、次回の課題に対する予習(自分の考えなどをまとめる)をしておく。(1時間)		
5	"	コーチングを知る 跳躍種目における体力トレーニングについて	授業内容を復習(レポート等の作成)すると共に、次回の課題に対する予習(自分の考えなどをまとめる)をしておく。		
6	"	コーチングを知る 砲丸投げの技術トレーニングについて	授業内容を復習(レポート等の作成)すると共に、次回の課題に対する予習(自分の考えなどをまとめる)をしておく。(1時間)		
7	"	コーチングを知る 円盤投げの技術トレーニングについて	授業内容を復習(レポート等の作成)すると共に、次回の課題に対する予習(自分の考えなどをまとめる)をしておく。(1時間)		
8	"	コーチングを知る 槍投げの技術トレーニングについて	授業内容を復習(レポート等の作成)すると共に、次回の課題に対する予習(自分の考えなどをまとめる)をしておく。(1時間)		
9	"	コーチングを知る ハンマー投げの技術トレーニングについて	授業内容を復習(レポート等の作成)すると共に、次回の課題に対する予習(自分の考えなどをまとめる)をしておく。(1時間)		
10	"	コーチングを知る 走り幅跳びの技術トレーニングについて	授業内容を復習(レポート等の作成)すると共に、次回の課題に対する予習(自分の考えなどをまとめる)をしておく。		
11	"	コーチングを知る 三段跳びの技術トレーニングについて	授業内容を復習(レポート等の作成)すると共に、次回の課題に対する予習(自分の考えなどをまとめる)をしておく。		
12	"	コーチングを知る 走り高跳びの技術トレーニングについて	授業内容を復習(レポート等の作成)すると共に、次回の課題に対する予習(自分の考えなどをまとめる)をしておく。		
13	"	コーチングを知る 棒高跳びの技術トレーニングについて	授業内容を復習(レポート等の作成)すると共に、次回の課題に対する予習(自分の考えなどをまとめる)をしておく。		
14	"	コーチングを探る コーチング実践の場における取り組み事例	授業内容を復習(レポート等の作成)すると共に、次回の課題に対する予習(自分の考えなどをまとめる)をしておく。(1時間)		
15	"	コーチングを考える コーチング実践の場における諸問題の整理と解決法	授業内容を復習し、コーチングに関する総括レポートを作成する。(1時間)		

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講演習(水泳)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (ボート・武道実践科学)
担当教員名	萬久 博敏・成田 健造			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	8
授業の概要 及び達成目標	水泳競技の力学・生理学・心理学的原則について理解し、コーチング法、指導法、トレーニング計画等に関する知識を身に着ける。また、国内外の水泳研究に関する資料、文献、論文の収集、抄読を通して、研究計画の立案やデータ処理、論文作成の能力向上を目指す。					
成績評価の方法	授業への取り組み状況(50%)、課題達成状況(50%)を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への主体的な参加態度、授業に向けた準備、討論への積極的な参加を重視して評価する。					
テキスト、教材 参考書	適宜紹介・配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)	水泳に対する幅広い探究心を持つ人の受講を望みます。			
オフィス・アワー	萬久：随時 実験プール教員室 成田：随時 研究棟8階812教員室または実験プール教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	萬久 博敏 成田 健造	オリエンテーション				
2	"	水の特性と水泳・水中運動			参考資料、関連論文のまとめ(1時間)	
3	"	水泳研究の歴史と変遷			参考資料、関連論文のまとめ(1時間)	
4	"	水泳研究における測定法と課題			参考資料、関連論文のまとめ(1時間)	
5	"	水泳に関する研究の計画立案、実験方法、分析方法			水泳に関する論文の検索・要約(2時間)	
6	"	水泳のトレーニングと運動強度、計画			参考資料、関連論文のまとめ(30分)	
7	"	競泳競技におけるトレーニングメニュー立案			水泳のトレーニングメニューに関する課題(1時間)	
8	"	水泳の生理学、トレーニング学			参考資料、関連論文のまとめ(30分)	
9	"	水泳の指導法			水泳の指導プログラムに関するレポート(2時間)	
10	"	水泳の経済性・有効性・効率			参考資料、関連論文のまとめ(30分)	
11	"	競泳競技における技術トレーニング			技術トレーニングに関するレポート(1時間)	
12	"	泳パフォーマンスの評価と分析			データ分析と資料作成(1時間)	
13	"	水泳研究実践			データの解析とまとめ(2時間)	
14	"	水泳に関する研究の論文作成、まとめ方			発表資料作成・準備(1時間)	
15	"	水泳に関する研究のディスカッション			発表資料の作成と振り返り(2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講演習(体操競技)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	山下 龍一郎・中谷 太希				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	1	受け入れ人数	5	
授業の概要 及び達成目標	体操競技について指導実践(コーチング)及び採点(審判業務), 専門用語と技の体系論(研究)という3つの立場から理解を深める。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> 体操競技における指導実践現場で生じる様々な現象を適切に言語化できるか。 採点規則に精通し, 適切な採点が行えるか。 体操競技の専門用語を理解し, 技の体系論について説明できるか。 					
テキスト、教材 参考書	体操競技のコーチング(大修館書店)金子明友著、スポーツ運動学(大修館書店)マイネル著・金子明友訳他					
履修条件・ 関連科目	体操競技に精通していること。	備考(教員メッ セージ含む)				
オフィス・アワー	山下: 801教員研究室(内線4969) 中谷: 708教員研究室(内線4976)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	山下 龍一郎	動感と身体知			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
2	"	スポーツ運動学入門 コツとカンについて			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
3	"	スポーツ運動学におけるカテゴリー理論 局面構成化・定位感			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
4	"	スポーツ運動学におけるカテゴリー理論 遠近感・弾力化・伝動化			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
5	"	スポーツ運動学におけるカテゴリー理論 優勢化・同時変換・先読み			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
6	"	スポーツ運動学におけるカテゴリー理論 伸長化・情況			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
7	"	体操競技の実践的研究について			レポート資料作成(60分)	
8	中谷 太希	採点規則の概要について			採点演習資料作成(60分)	
9	"	採点規則のDスコアについて			採点演習資料作成(60分)	
10	"	採点規則のEスコアについて			採点演習資料作成(60分)	
11	"	演技の実採点を行う(DスコアとEスコアの両立)			採点演習資料作成(60分)	
12	"	体操競技のコーチング実践に向けて 創発と促発について			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
13	"	体操競技のコーチング実践に向けて 自身が習熟している技のコーチングを想定して			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
14	"	体操競技のコーチング実践に向けて 自身が習得していない技のコーチングを想定して			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講演習(サッカー)	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ 武道実践科学)
担当教員名	塩川 勝行・村川 大輔			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	サッカー競技を中心に技術・戦術・体力のコーチング法、評価方法を中心に、チームマネジメント及びトレーニング計画等を研究討議する。また、育成年代(小学生～高校生)までの長期展望に立った一貫指導についての指導方法を実践研究する。 サッカーのゲームを構成する技術・戦術・体力を理解し、各年代のコーチング論及びコーチング法を習得することを目標とする。				
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。				
成績評価の基準	授業での課題、レポート総合的に評価する。				
テキスト、教材 参考書	参考書 サッカー勝利への技術・戦術(チャールズ・ヒューズ大修館書店.1996.@3,200) 指導者のためのサッカー強化書(グロ・ビザンツ.ベースボールマガジン社.1997.@2,800) フランスサッカーのプロフェッショナル・コーチング(ジェラルド・ウリエ大修館書店.2000.@2,500)				
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	金曜日 9時～12時 810教室 事前にアポイントメントを取ること(shiokawa@nifs-k.ac.jp)				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	塩川 勝行 村川 大輔	オリエンテーション、サッカーの歴史と競技特性	小レポート及びディスカッション資料作成(60分)		
2	"	サッカーにおける技術・戦術論(1)	小レポート及びディスカッション資料作成(60分)		
3	"	サッカーにおける技術・戦術論(2)	小レポート及びディスカッション資料作成(60分)		
4	"	サッカーにおけるゲーム分析(1)	小レポート及びディスカッション資料作成(60分)		
5	"	サッカーにおけるゲーム分析(2)	小レポート及びディスカッション資料作成(60分)		
6	"	サッカーにおけるプランニング(1)	小レポート及びディスカッション資料作成(60分)		
7	"	サッカーにおけるプランニング(2)	小レポート及びディスカッション資料作成(60分)		
8	"	サッカーにおけるトレーニング&コーチング(1)	小レポート及びディスカッション資料作成(60分)		
9	"	サッカーにおけるトレーニング&コーチング(2)	小レポート及びディスカッション資料作成(60分)		
10	"	サッカーにおけるフィジカルトレーニング	小レポート及びディスカッション資料作成(60分)		
11	"	チーム作りとトレーニング計画	小レポート及びディスカッション資料作成(60分)		
12	"	チームマネジメント	小レポート及びディスカッション資料作成(60分)		
13	"	育成年代の指導方法(1)	小レポート及びディスカッション資料作成(60分)		
14	"	育成年代の指導方法(2)	小レポート及びディスカッション資料作成(60分)		
15	"	まとめ	レポート作成(60分)		

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講演習(バスケットボール)	授業形態	講義	授業科目区分	応用科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	三浦 健			補助担当者名	前村かおり
単位数	2 単位	履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	バスケットボールへの関わり方において、プレーヤーとは異なる立場、主に指導、審判、運営、トレーナーという側面についてのテーマに関する情報媒体を取り上げる。これらの抄読・鑑賞・ディスカッションを繰り返すことにより、各人の将来に対するバスケットボール人としての位置づけ(指針)をサポートする。				
成績評価の方法	授業への取り組み状況、レポート等の提出状況を総合的に評価する。				
成績評価の基準	授業で取り上げたテーマに関して、教わったことばかりでなく、自分自身の考えを構築し、ディスカッションの場で発言できるかを評価の最大のポイントとする。				
テキスト、教材 参考書	必要に応じて資料を配布する。				
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時 総合体育館教員室(三浦)				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	三浦 健	オリエンテーション、球技における技術向上の実践研究に関する文献講読		配布資料を復習する。(15分)	
2	"	球技における戦術行動の実践研究に関する文献講読		配布資料を復習する。(15分)	
3	"	球技におけるコーチング実践研究に関する文献講読		配布資料を復習する。(15分)	
4	"	球技における競技運営の実践研究に関する文献講読		配布資料を復習する。(15分)	
5	"	けがからの回復トレーニングの実践研究に関する文献講読		配布資料を復習する。(15分)	
6	"	けがを予防するトレーニング方法に関する文献講読		配布資料を復習する。(15分)	
7	"	体力(跳躍力)を高めるトレーニング方法に関する文献講読		配布資料を復習する。(15分)	
8	"	体力(瞬発力)を高めるトレーニング方法に関する文献講読 まとめ		小レポート提出(1時間)	
9	"	指導者、観客の目から見たルールと審判法		バスケットボールのルールと審判法 予習(15分)	
10	"	バスケットボールの戦術論 オフェンス(速攻法)		配布資料を復習する。(15分)	
11	"	バスケットボールの戦術論 オフェンス(フリーランス)		配布資料を復習する。(15分)	
12	"	バスケットボールの戦術論 オフェンス(パターン)		配布資料を復習する。(15分)	
13	"	バスケットボールの戦術論 ディフェンス(マンツーマン)		配布資料を復習する。(15分)	
14	"	バスケットボールの戦術論 ディフェンス(ゾーン)		配布資料を復習する。(15分)	
15	"	まとめ		小レポート提出(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講演習(テニス)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	高橋 仁大・村上 俊祐			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	球技ならびにテニスにおけるコーチングを行うために考えるべき原理・原則から、テニスのコーチング学に関する文献講読、映像を活用した技術のコーチング、ゲーム・戦術のコーチングなど、テニスを切り口に球技およびスポーツ全般に関わるコーチング学を展開する。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	講義内での発表状況と発表内容、演習への取組状況や積極性、期末レポートの内容と完成度を評価の基準とする。					
テキスト、教材 参考書	The Essentials of Performance Analysis, M. Hughes and I. Franks, Routledge. Routledge Handbook of Sports Performance Analysis, T. McGarry, P. O'Donoghue and J. Sampaio, Routledge 体育・スポーツに分野における実践研究の考え方と論文の書き方, 福永哲夫・山本正嘉編, 市村出版 コーチング学への招待, 日本コーチング学会編, 大修館書店 球技のコーチング学, 日本コーチング学会編, 大修館書店 テニス指導教本, 日本テニス協会編, 大修館書店					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)	コンピュータで映像を操作することの基本的技能を備えていることを前提とする。また学内外で開催される各種講習会やセミナーへの参加を奨励する。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがある。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用する。			
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋 (SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室) 村上 (研究棟8階806教員研究室)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高橋 仁大 村上 俊祐	スポーツコーチング学の原理・原則			講義内容の予習と復習(1時間)	
2	"	テニスのコーチング学に関する文献講読			講義内容の予習と復習(1時間)	
3	"	テニスのコーチング学に関する文献講読			講義内容の予習と復習(1時間)	
4	"	テニスのコーチング学に関する文献講読			講義内容の予習と復習(1時間)	
5	"	テニスのコーチングにおける映像活用演習 技術指導での活用			講義内容の予習と復習(1時間)	
6	"	テニスのコーチングにおける映像活用演習 技術指導での活用			講義内容の予習と復習(1時間)	
7	"	テニスのコーチングにおける映像活用演習 技術指導での活用			講義内容の予習と復習(1時間)	
8	"	テニスのコーチングにおける映像活用演習 技術指導での活用			講義内容の予習と復習(1時間)	
9	"	テニスのコーチングにおける映像活用演習 ゲーム・戦術指導での活用			講義内容の予習と復習(1時間)	
10	"	テニスのコーチングにおける映像活用演習 ゲーム・戦術指導での活用			講義内容の予習と復習(1時間)	
11	"	テニスのコーチングにおける映像活用演習 ゲーム・戦術指導での活用			講義内容の予習と復習(1時間)	
12	"	テニスのコーチングにおける映像活用演習 ゲーム・戦術指導での活用			講義内容の予習と復習(1時間)	
13	"	スポーツのコーチング学に関する文献講読			講義内容の予習と復習(1時間)	
14	"	スポーツのコーチング学に関する文献講読			講義内容の予習と復習(1時間)	
15	"	スポーツコーチング論の構築に向けて			レポート(2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講演習(バレーボール)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	濱田 幸二・坂中 美郷			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	<p>ボールゲームの研究発展史、国際大会の競技力構造、トレーニングとコーチング、戦術分析、チームマネジメントを基礎理論とし、特にチームゲームの専門的指導理論を検討する。</p> <p>バレーボールにおける種目特性に応じた技術・戦術のトレーニング、実践的な体力、精神力の強化策をトータルに論じて、現場へのフィードバック法を実際に年齢別(コース・ジュニア・シニア)、レベル別(初級・中級・上級)にコーチングを行う。</p> <p>トレーニング計画を企てることが出来、実際に対象者別にコーチングを行うことが出来るようになる。</p>					
成績評価の方法	<p>学期末試験の成績(30%) 授業への取り組み状況(40%) レポート等の提出状況(30%) を総合的に評価する。</p>					
成績評価の基準	<p>毎回レポート提出と発表とディスカッションを行い、コーチングに関して演習形式を現場(オンライン及び体育館等)で行い成績評価とする。</p>					
テキスト、教材 参 考 書	<p>G. シューテラー、唐木國彦訳「ボールゲーム辞典」大修館書店 コーチング学研究、スポーツパフォーマンス研究及びバレーボール研究他 随時配布</p>					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	<p>808教員室(濱田):水曜日終日 ほかの日はメールにて確認 601教員室(坂中):木曜日終日 ほかの日はメールにて確認</p>					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	濱田 幸二	ボールゲームの分類と研究発展史			講義内容の予習と復習・レポート(1時間)	
2	"	ボールゲームの国際競技力比較			講義内容の予習と復習・レポート(1時間)	
3	"	ボールゲームの技術・戦術分析と最先端のアナライズ法			講義内容の予習と復習・レポート(1時間)	
4	"	バレーボールのコーチング課題			講義内容の予習と復習・レポート(1時間)	
5	"	バレーボールの技術的・戦術的能力の定義			講義内容の予習と復習・レポート(1時間)	
6	坂中 美郷	バレーボールの攻撃力と防御力			講義内容の予習と復習・レポート(1時間)	
7	"	メンタルとフィジカルの強化策			講義内容の予習と復習・レポート(1時間)	
8	"	トレーニングと試合のマネージメント			講義内容の予習と復習・レポート(1時間)	
9	"	目標設定とトレーニング計画			講義内容の予習と復習・レポート(1時間)	
10	"	競技選手の心理的及び身体的測定評価			講義内容の予習と復習・レポート(1時間)	
11	濱田 幸二 坂中 美郷	バレーボールのスカウティング、ゲーム分析とその解析			講義内容の予習と復習・レポート(1時間)	
12	"	バレーボールのCoordination調整力のトレーニング			講義内容の予習と復習・レポート(1時間)	
13	"	チームスポーツのコーチングスキル			講義内容の予習と復習・レポート(1時間)	
14	"	球技トレーニングの日本的課題			講義内容の予習と復習・レポート(1時間)	
15	"	球技種目の発展方向とシュミレーション			総合的レポート作成(2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講演習 (海洋スポーツ)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ実践科学)
担当教員名	中村 夏実・榮樂 洋光・笹子 悠歩			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	<p>現在、海洋スポーツは普及・振興の観点に加え、健康増進、地域活性化、生涯スポーツとしての価値が再評価されている。また、我が国の海洋政策（海洋基本計画）に基づき、海洋に対する理解の深化と実践的な人材育成が求められている。</p> <p>本授業では、こうした社会的要請に対応できる高度専門職としてのコーチング能力の養成を目的とする。海洋スポーツにおける一般コーチングおよび競技コーチングの両側面から、生理学的・力学的知識、実技力、指導力、プログラム設計力および企画運営力を体系的に習得する。</p> <p>さらに、安全管理（レスキュー能力、気象判断、リスクマネジメント）に関する知識・技能を統合的に理解し、実践場面において適切な意思決定ができる能力の獲得を目指す。加えて、文献およびデータに基づく分析を通して、自らのコーチング実践を評価・改善する力を養う。</p> <p>本授業の到達目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海洋スポーツにおけるコーチングの理論と実践を統合的に理解できる ○対象（児童・成人・高齢者）に応じた指導およびプログラム設計ができる ○競技特性に基づくパフォーマンス分析および改善計画の立案ができる ○海洋環境下における安全管理およびリスク判断ができる 					
成績評価の方法	学期末試験の成績（%） 出席状況（%） 授業への取り組み状況（30%） レポート・プレゼンテーションの充実度（70%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	【授業へ取り組み状況】実技・演習における主体的参加、課題への取り組み姿勢および協働性（第1回オリエンテーションを除く2点×15回）【レポート課題】論理的構成および記述の明確性、文献およびデータに基づく分析の妥当性、課題設定の適切性と独自性、実践的提案の具体性および実現可能性、安全管理への配慮等を評価内容とする。					
テキスト、教材 参考書	必要に応じて、教材・資料を提示および配布、文献紹介等を行う。					
履修条件・ 関連科目	特になし。		備考(教員メッセージ含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋スポーツ系・水上スポーツ系の競技経験の有無は問いません。競技経験のない場合は、「一般コーチング」に絞って授業展開をします。 ・天候により授業内容が変更されることがあります。 ・荒天時の対応に備えて、連絡先等の個人情報をお伺いします。 ・医師により、水中での活動や海水への接触を控えるよう指示されている場合は、授業前に必ずご相談ください。 		
オフィス・アワー	中村：随時（natsumi@nifs-k.ac.jp） 榮樂：随時（eiraku@nifs-k.ac.jp） 笹子：随時（sasago@nifs-k.ac.jp）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中村 夏実 榮樂 洋光 笹子 悠歩	オリエンテーション / 海洋スポーツとコーチングの全体像			資料等の復習（1時間）	
2	"	.一般コーチングの基礎と実践 対象別指導論（児童・成人・高齢者）			ディスカッション準備・資料等の復習（2時間）	
3	"	.一般コーチングの基礎と実践 生理学的基礎（環境適応・疲労・安全）			ディスカッション準備・資料等の復習（2時間）	
4	"	.一般コーチングの基礎と実践 指導法と実技（基礎技能・安全配慮）			ディスカッション準備・資料等の復習（2時間）	
5	"	.一般コーチングの基礎と実践 指導法と実技 指導展開と伝達方法（動作指導・フィードバック）			ディスカッション準備・資料等の復習（2時間）	
6	"	.一般コーチングの基礎と実践 プログラム設計およびイベント企画「現場実践」			ディスカッション準備・資料等の復習（2時間）	
7	"	.競技コーチング（専門化・分析）：セーリング系orローイング系 競技コーチング概論			資料等の復習（1時間）	
8	"	.競技コーチング（専門化・分析）：セーリング系orローイング系 力学的基礎および運動分析、生理学的基礎			ディスカッション準備・資料等の復習（2時間）	
9	"	.競技コーチング（専門化・分析）：セーリング系orローイング系 パフォーマンス分析手法（映像データ・数値データ）			ディスカッション準備・資料等の復習（2時間）	
10	"	.競技コーチング（専門化・分析）：セーリング系orローイング系 トレーニング計画およびプログラム作成			ディスカッション準備・資料等の復習（2時間）	
11	"	.競技コーチング（専門化・分析）：セーリング系orローイング系 課題分析と改善案「実践的コーチング」			ディスカッション準備・資料等の復習（2時間）	
12	"	.統合（データ分析・文献購読・安全理解・振り返り） 文献購読（理論理解）			関連文献の事前精読および要点整理（2時間）	
13	"	.統合（データ分析・文献購読・安全理解・振り返り） 文献購読（理論理解）			関連文献の事前精読および要点整理（2時間）	
14	"	.統合（データ分析・文献購読・安全理解・振り返り） データ収集・分析（実践データ収集）			データ収集器材準備等・資料等の復習（2時間）	
15	"	.統合（データ分析・文献購読・安全理解・振り返り） データ収集・分析（収集データの統合・解釈）			ディスカッション準備・資料等の復習（2時間）	
16	"	.統合（データ分析・文献購読・安全理解・振り返り） 発表「科学的根拠に基づく考察」・まとめ			発表準備・資料等の復習（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講演習(自転車)	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ実践科学)
担当教員名	山口 大貴			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	本授業では、自転車競技(トラックおよびロード種目)におけるパフォーマンスの構成要素について体系的に理解するとともに、コーチング法およびトレーニング法に関する専門的知見の習得を目指す。さらに、国内外の自転車競技に関する文献および研究動向を踏まえ、研究計画の立案、データ分析手法の理解、および論文執筆能力の向上へと発展させる。				
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。				
成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への取り組み状況、レポート等を総合的に判断する。				
テキスト、教材 参考書	授業ごとに必要に応じて資料を配布する。				
履修条件・ 関連科目	自転車競技を専門とする者	備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階 803教員研究室(h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp)。				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	山口 大貴	オリエンテーション(授業概要、成績評価)。			
2	"	自転車競技における種目特性とパフォーマンスの構成要素を考える	授業内容の復習と次回の課題に対する予習(1時間)		
3	"	自転車競技における種目特性とパフォーマンスの構成要素を考える	授業内容の復習と次回の課題に対する予習(1時間)		
4	"	自転車競技における種目特性とパフォーマンスの構成要素を考える	授業内容の復習と次回の課題に対する予習(1時間)		
5	"	自転車競技における先行研究の調査	授業内容の復習と次回の課題に対する予習(1時間)		
6	"	自転車競技における先行研究の調査	授業内容の復習と次回の課題に対する予習(1時間)		
7	"	自転車競技における先行研究の調査	授業内容の復習と次回の課題に対する予習(1時間)		
8	"	自転車競技におけるトレーニング構造	授業内容の復習と次回の課題に対する予習(1時間)		
9	"	自転車競技におけるトレーニング構造	授業内容の復習と次回の課題に対する予習(1時間)		
10	"	自転車競技におけるトレーニング構造	授業内容の復習と次回の課題に対する予習(1時間)		
11	"	自転車競技における研究計画の立案、データ分析手法の理解と評価	授業内容の復習と次回の課題に対する予習(1時間)		
12	"	自転車競技における研究計画の立案、データ分析手法の理解と評価	授業内容の復習と次回の課題に対する予習(1時間)		
13	"	自転車競技における研究論文執筆	授業内容の復習と次回の課題に対する予習(1時間)		
14	"	自転車競技における研究論文執筆	授業内容の復習と次回の課題に対する予習(1時間)		
15	"	自転車競技における研究論文執筆	授業内容の復習と次回の課題に対する予習(1時間)		

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特講演習(野球)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ実践科学)
担当教員名	藤井 雅文			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	本授業では、野球を題材として、試合で成果を発揮するためのコーチングの原理・原則、技術指導、戦術指導、トレーニング計画、コンディショニング、データ活用、チームマネジメント等について、文献講読、事例検討、映像分析、発表・討論を通して学ぶ。さらに、コーチング実践の場において生じる諸課題を取り上げ、選手の成長と試合での活躍を支える指導の在り方について論考する。これらを通して、受講生が野球コーチングを多角的・体系的に理解し、競技現場において高度なコーチングを実践していくための基礎的・応用的能力を身につけることを目標とする。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(60%) レポート等の提出状況(40%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業内での発表・討論への参加状況、事例分析や映像分析の内容、演習への主体的な取り組み、提出レポートの内容と完成度をもとに、野球コーチングを体系的に理解し、実践に接続できる力が身につけているかを総合的に評価する。					
テキスト、教材 参考書	適宜紹介・配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	野球の現場では、技術指導だけでなく、選手理解、チームづくり、試合での意思決定、データ活用などを統合したコーチングが求められる。自身の経験や関心をもとに、理論と実践を往還しながら学びを深めてほしい。			
オフィス・アワー	随時 804研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	藤井 雅文	オリエンテーション/野球コーチング学を学ぶ意義と授業の進め方			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
2	"	野球におけるコーチングの原理・原則/競技特性の理解			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
3	"	野球のパフォーマンス構造と試合分析の視点			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
4	"	打撃指導の理論と実践上の課題			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
5	"	投球指導の理論と実践上の課題			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
6	"	守備・走塁指導とゲームパフォーマンス向上			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
7	"	戦術指導 : 攻撃戦術(打順、作戦、状況判断)			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
8	"	戦術指導 : 守備戦術(配球、守備体系、継投)			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
9	"	チームづくりと組織マネジメント			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
10	"	チームづくりと組織マネジメント			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
11	"	チームづくりと組織マネジメント			小レポート及びディスカッション資料作成(60分)	
12	"	コーチング事例発表			発表準備・資料修正(90分)	
13	"	コーチング事例発表			発表準備・資料修正(90分)	
14	"	コーチング事例発表			発表準備・資料修正(90分)	
15	"	総括: 野球コーチングの課題と今後の展望/最終レポート提出			最終レポート作成(120分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道指導論特講演習(剣道)	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	前阪 茂樹・竹中 健太郎			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	武道,特に剣道に関する文献・資料・映像などを分析し、技術の構造についての講義及び演習を進める。その中で、剣道の持つ歴史性・文化的特性・求道性・競技性などを俯瞰しながら教育的特性を考究し、それに関する高度な専門知識・技術・指導の教育研究能力を身につけることを目標とする。				
成績評価の方法	授業への取り組み状況(80%) レポート等の提出状況(20%)				
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に評価する。				
テキスト、教材 参考書	近代剣道名著大系全集(同朋舎出版) 近代剣道書選集(本の友社) 武道学研究(日本武道学会)				
履修条件・ 関連科目	内容がより専門的になるため、剣道有段者・修行者に限る。	備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時:506研究室(前阪)				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	前阪 茂樹	イントロダクション 剣道史の俯瞰	授業の振り返り(30分)		
2	"	打突技術の構造論1	授業の振り返り(30分)		
3	"	打突技術の構造論1(発表と討議)	レポート1作成(2時間)		
4	竹中 健太郎	打突技術の構造論2	授業の振り返り(30分)		
5	"	打突技術の構造論2(発表と討議)	レポート2作成(2時間)		
6	"	現代剣道の稽古論	授業の振り返り(30分)		
7	"	現代剣道の稽古論(発表と討議)	レポート3作成(2時間)		
8	"	現代剣道の文化性と競技性について	授業の振り返り(30分)		
9	"	応用技能実践演習1	対人稽古1時間		
10	"	応用技能実践演習2	対人稽古1時間		
11	前阪 茂樹	剣道実践演習	地稽古1時間		
12	"	剣道形実践演習1	形稽古1時間		
13	"	剣道形実践演習2	形稽古1時間		
14	"	日本刀及び模擬刀の取り扱いに関する演習			
15	"	授業の総括と討論形式での評価			

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道指導論特講演習(柔道)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ実践科学)
担当教員名	小澤 雄二・小崎 亮輔			補助担当者名	小崎亮輔	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	武道(柔道)の指導に必要な理論について、柔道論、指導方法論、技術論、心理学、体力トレーニング学、スポーツ医学等の各側面から演習し理解を深める。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(70%) レポート等の提出状況(30%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に評価する。					
テキスト、教材 参考書	随時資料を配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)	授業の進捗状況によって、内容の変更もある。			
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室(小澤) 随時：研究棟5階 504研究室(小崎)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	小澤 雄二 小崎 亮輔	オリエンテーション：演習の進め方、評価の仕方等			予習30分	
2	"	柔道論			予習復習30～60分	
3	"	柔道論			予習復習30～60分	
4	"	柔道の指導方法論			予習復習30～60分	
5	"	柔道の指導方法論			予習復習30～60分	
6	"	柔道の心理学			予習復習30～60分	
7	"	柔道の心理学			予習復習30～60分	
8	"	柔道の技術論			予習復習30～60分	
9	"	柔道の技術論			予習復習30～60分	
10	"	柔道の体力トレーニング学			予習復習30～60分	
11	"	柔道の体力トレーニング学			予習復習30～60分	
12	"	柔道のスポーツ医学			予習復習30～60分	
13	"	柔道のスポーツ医学			予習復習30～60分	
14	"	発表			発表の準備60分以上	
15	"	発表			発表の準備60分以上	

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道論特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ実践科学)
担当教員名	前阪 茂樹			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	日本の伝統文化である武道について、その理念や普遍性、修練の構造などの諸特性を前提に、武道のもつ様々な側面を演習形式で討議する。それによって武道の持つ文化的側面に関する高度な知識と研究の方法を追求し、学ぶことを目標とする。					
成績評価の方法	授業への取り組み状況 (80%) レポート等の提出状況 (20%)					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に判断、評価する。					
テキスト、教材 参考書	事前に読んでおく参考書、文献等：武道学研究 (日本武道学会)、今村嘉雄 編集『日本武道大系』(同朋舎) 他、その都度提供する。					
履修条件・ 関連科目	武道の経験を有する者	備考(教員メッセージ含む)				
オフィス・アワー	随時：506研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	前阪 茂樹	ガイダンス、授業の進め方				
2	"	武道修練の構造「稽古」と「練習」			復習及び発表レポートの作成 (約2時間)	
3	"	発表・討論			予習約30分	
4	"	武道修練の構造「守破離」			復習及び発表レポートの作成 (約2時間)	
5	"	発表・討論			予習約30分	
6	"	武道修練の構造「三磨之位」と「聞思修」			復習及び発表レポートの作成 (約2時間)	
7	"	発表・討論			予習約30分	
8	"	武道修練の構造「事」と「理」			復習及び発表レポートの作成 (約2時間)	
9	"	発表・討論			予習約30分	
10	"	稽古論 日本文化と「かた」			復習及び発表レポートの作成 (約2時間)	
11	"	発表・討論			予習約30分	
12	"	武道学研究の動向その1 文献レビュー				
13	"	武道学研究の動向その2 文献レビュー				
14	"	武道用具 (武具・刀剣類) と施設 (道場) について			レポート作成 (約1時間)	
15	"	本授業の総括 (討論形式での振り返り)				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツパフォーマンス学特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	高橋 仁大・前田 明・金高 宏文・竹中 健太郎・藤井 雅文・山口 大貴・笹子 悠歩			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	<p>スポーツパフォーマンス学とは何かを理解し、自身でも論文の作成ができるようになるための方法論を学ぶ。当該研究の発表の場である『スポーツパフォーマンス研究』に掲載された過去の論文をふまえ、実際にスポーツパフォーマンスの測定・調査や分析を行い、自身のデータをもとに実践研究の論文としてまとめる。</p> <p>【授業に含まれる活動】 ・ ・ ・実施あり、x ・ ・ ・実施なし、 ・ ・ ・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク()、ディスカッション・討論()、プレゼンテーション・発表()、フィールドワーク()</p>					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への積極的な参加態度および実践研究論文の達成度から総合的に評価する。『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする実践的な研究論文を掲載する雑誌への執筆・投稿を目指し、成果があればそれも評価に加える。					
テキスト、教材 参 考 書	<p>テキスト：『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版(2018)</p> <p>参考書：『アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学』山本著(市村出版、2021)、『スポーツパフォーマンス研究』(http://www.sports-performance.jp/)にこれまでに掲載された研究論文とEditorial</p>					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)				
オフィス・アワー	<p>随時 事前にアポイントをとること</p> <p>高橋 (SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室)</p> <p>金高 (大学院棟3階4教員研究室)</p> <p>竹中 (研究棟5階507教員研究室)</p> <p>藤井 (研究棟8階804教員研究室)</p> <p>山口 (研究棟8階803教員研究室)</p> <p>笹子 (海洋スポーツセンターまたは大学院棟3階 3教員研究室)</p> <p>前田 (研究棟4階405教員研究室)</p>					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高橋 仁大 竹中 健太郎 藤井 雅文 山口 大貴 笹子 悠歩	実践研究における論文執筆のオリエンテーション			授業内容の予習と復習(60分)	
2	"	実践研究の論文テーマを検討する			授業の振り返りとテーマの検討・プレゼン用意(60分)	
3	"	実践研究の論文テーマを検討する			授業の振り返りとテーマの検討とプレゼン用意(60分)	
4	"	実践研究の論文テーマを検討する			授業の振り返りとテーマの整理(60分)	
5	"	実践研究の論文構成を検討する			授業内容の予習と復習(60分)	
6	"	実践研究の論文構成を検討する			授業内容の予習と復習(60分)	
7	"	実践研究の論文構成を検討する			授業内容の予習と復習(60分)	
8	高橋 仁大 前田 明 金高 宏文 竹中 健太郎 藤井 雅文 山口 大貴 笹子 悠歩	中間発表会			中間発表の準備(予習)と復習(60分)	
9	高橋 仁大 竹中 健太郎 藤井 雅文 山口 大貴 笹子 悠歩	実践研究のデータを測定・分析する			授業内容の予習と復習(60分)	
10	"	実践研究のデータを測定・分析する			授業内容の予習と復習(60分)	
11	"	実践研究のデータを測定・分析する			授業内容の予習と復習(60分)	
12	"	実践研究成果のまとめ			授業の振り返りとテーマの検討・プレゼン用意(60分)	
13	"	実践研究成果のまとめ			授業の振り返りとテーマの検討・プレゼン用意(60分)	
14	"	実践研究成果のまとめ 最終発表準備			プレゼンテーションの作成(60分)	
15	高橋 仁大 前田 明 金高 宏文 竹中 健太郎 藤井 雅文 山口 大貴 笹子 悠歩	最終発表会			最終発表の準備(予習)と復習(60分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスサイエンス特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	中垣内 真樹・沼尾 成晴				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	国内外で実践されてきた身体運動による健康づくりの研究成果を学ぶとともに内外の学術誌から抄読を行ない、最新の研究成果の把握と問題点を学習する。関連する研究の手法を習得する。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	学習内容のプレゼンテーションとディスカッションを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて配付する、もしくは指示する。 参考書：「健康年齢のためのスマートライフ」(公益財団法人日本スポーツ協会監修, (株)サンライフ企画, 2019年, 3080円)					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)	講義は、質問や討論を行いながら進める。			
オフィス・アワー	随時 中垣内：研究棟407研究室 沼尾：研究棟406研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中垣内 真樹 沼尾 成晴	オリエンテーション			文献の予習(1時間)	
2	"	MedlineまたはPubMedを使った文献検索			文献の予習・復習(1時間)	
3	"	健康づくりに関する文献講読 - 1			文献の予習・復習(1時間)	
4	"	健康づくりに関する文献講読 - 2			文献の予習・復習(1時間)	
5	"	健康づくりに関する文献講読 - 3			文献の予習・復習(1時間)	
6	"	健康づくりに関する文献講読 - 4			文献の予習・復習(1時間)	
7	"	健康づくりに関する文献講読 - 5			文献の予習・復習(1時間)	
8	"	運動と健康づくりに関する文献講読 - 1			文献の予習・復習(1時間)	
9	"	運動と健康づくりに関する文献講読 - 2			文献の予習・復習(1時間)	
10	"	運動と健康づくりに関する文献講読 - 3			文献の予習・復習(1時間)	
11	"	運動と健康づくりに関する文献講読 - 4			文献の予習・復習(1時間)	
12	"	運動と健康づくりに関する文献講読 - 5			文献の予習・復習(1時間)	
13	"	介入研究の方法 1 計画立案と進め方			文献の予習・復習(1時間)	
14	"	介入研究の方法 2 分析と考察			文献の予習・復習(1時間)	
15	"	まとめ			レポート(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ医科学特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	藤井 康成・樋口 公嗣・廣津 匡隆				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	運動が心肺機能や自律神経に及ぼす影響を心電図, 超音波装置, 心肺機能測定装置などを実際に用いて学ぶ。(双方型)					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(80%) レポート等の提出状況(20%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記を合計して判断する。					
テキスト、教材 参考書	特になし					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時、保健管理センター					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	樋口 公嗣	安静時心電図：お互いの心電図を実際に記録する。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
2	"	運動負荷心電図：トレッドミルを用いる。記録及び解析			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
3	"	ホルター心電図 1：機器の取り扱いの説明及びホルターの装着 ホルター心電図 2：記録及び解析			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
4	"	ペクトル心電図：PREDICTOR IIを用いて記録及び解析			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
5	"	ヒス心電図：PREDICTOR IIを用いて記録及び解析			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
6	"	体表面電位図：PREDICTOR IIを用いて記録及び解析(レートポテンシャルの有無など)			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
7	"	自律神経機能検査 1：R-R間隔変動係数を用いる。 自律神経機能検査 2：PREDICTOR IIによるR-R間隔のスペクトル解析(LF/HF)			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
8	"	自律神経機能検査 3：ダイビング反射試験のR-R間隔変動について検討する。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
9	"	自律神経機能検査 4：運動及び自律訓練のR-R間隔変動係数への影響を検討する。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
10	"	心エコー図 1：お互いの心エコー図をMモード法を用いて記録			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
11	"	心エコー図 2：お互いの心エコー図を断層法を用いて記録			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
12	"	心エコー図 3：お互いの左室流入血量などをドップラー法を用いて記録			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
13	"	頸動脈エコー図 1：ドップラー法を用いて血流を測定する。 上腕動脈エコー図：阻血による直径の変化を測定し、内皮機能を検査する。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
14	"	心機能評価：実際に記録したエコー図を用いて心拍出量などを測定 運動負荷・心エコー図：トレッドミルを用いる。記録及び測定			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	
15	"	自身の心エコー図よりの計測および以上の実習で得た知識で研究プランを立てる。			参考書・資料等の復習及び予習(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	公衆衛生学特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (生物学・生命科学)
担当教員名	古瀬 裕次郎				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	<p>公衆衛生学は、私たちの生活を豊かにするうえで必要である。SNSが普及した昨今、健康に関する情報は毎日私たちの目に触れる。そのため、私たちはいつでもどこでも健康に係る情報を入手できるが、入手した情報の正誤を判断する能力がなければ、得られた情報は私たちを不幸にすることもある。本特講演習は、健康に係る情報をディスカッションテーマに掲げ、その正誤を判断するため、情報の検索や実際の実験によって理解を深めていく。</p> <p>【授業に含まれる活動】○:実施する; ×:実施しない; :授業の進捗状況や場合によって実施する グループワーク(○); ディスカッション・討論(○); プレゼンテーション・発表(○); フィールドワーク()</p>					
成績評価の方法	授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%)を総合的に評価する。					
成績評価の基準	積極的な授業への参加、姿勢、意見や自由な発想を評価として重視する。					
テキスト、教材 参考書	必要に応じて教員が配布する。					
履修条件・ 関連科目	ヘルスサイエンス特講を受講することが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	PC、タブレット端末の使用を推奨。データ処理ではPCを使用する。			
オフィス・アワー	研究棟5階 509教室 (ykose@nifs-k.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	古瀬 裕次郎	オリエンテーション	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			
2	"	実験計画の立案	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			
3	"	実験	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			
4	"	実験	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			
5	"	実験	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			
6	"	実験	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			
7	"	実験データの分析	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			
8	"	実験データの発表	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			
9	"	実験計画の立案	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			
10	"	実験	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			
11	"	実験	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			
12	"	実験	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			
13	"	実験	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			
14	"	実験データの分析・発表	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			
15	"	総論	特講演習内で提示された課題、テーマに対する復習(30分以上)			

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動処方論特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (※ - ヅ生命科学)
担当教員名	藤田 英二			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	運動処方あるいはそれらに関連する科学的エビデンスを精査しながら、それぞれの運動の特性やその運動が持つ効果について議論する。また、文献調査・実験立案・データ採取と分析・結果発表・ディスカッションを繰り返しながら研究の方向性を確立し、科学的エビデンスを公表する能力の向上を目指す。					
成績評価の方法	学期末試験の成績 (%) 授業への取り組み状況 (40%) レポート等の提出状況 (60%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さを総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されている運動処方およびトレーニング科学に関連する論文					
履修条件・ 関連科目	前期の「運動処方論特講」を履修済みであること。	備考(教員メッ セージ含む)	授業開催日と開催方法は履修者と相談のうえ変更することがあります。			
オフィス・アワー	随時：まずはメールで相談を (fujita@nifs-k.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	藤田 英二	オリエンテーション				
2	"	運動処方にに関する研究レビュー・実験デザインについて	配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。(1時間程度)			
3	"	有酸素運動の処方とその評価法	配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。(1時間程度)			
4	"	レジスタンス運動の処方とその評価法	配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。(1時間程度)			
5	"	柔軟運動の処方とその評価法	配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。(1時間程度)			
6	"	バランス運動の処方とその評価法	配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。(1時間程度)			
7	"	骨密度を高める運動の処方とその評価法	配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。(1時間程度)			
8	"	実験 1	配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。(1時間程度)			
9	"	実験 1 のプレゼンテーションとディスカッション	配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。(1時間程度)			
10	"	実験 2	配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。(1時間程度)			
11	"	実験 2 のプレゼンテーションとディスカッション	配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。(1時間程度)			
12	"	実験 3	配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。(1時間程度)			
13	"	実験 3 のプレゼンテーションとディスカッション	配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。(1時間程度)			
14	"	実験 4	配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。(1時間程度)			
15	"	実験 4 のプレゼンテーションとディスカッション	配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。(1時間程度)			
16	"	試験は実施しない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	高井 洋平・赤澤 暢彦			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	<p>高井：トレーニング科学分野の論文を作成するシミュレーションを行う。“トレーニング”をキーワードに、各自が興味あるテーマを題材に、研究の目的・仮説の設定、方法および予想される結果について発表し、それについて全員で討議する。</p> <p>赤澤：トレーニング科学に関する循環機能の測定技術を習得し、得られたデータの分析および解釈や問題点などを議論する。</p>					
成績評価の方法	授業への取り組み状況（70%） レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記事項を踏まえて総合的に判断・評価する。					
テキスト、教材 参考書	必要に応じて、資料の配付および授業の際に参考図書等を紹介する					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)	授業は夏休み（8-9月）に集中講義（実験とデータ解析）を行います。履修後に、日程調整をします。			
オフィス・アワー	<p>随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 （高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp） （赤澤：研究棟3階・302教員研究室、akazawa@nifs-k.ac.jp）</p>					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高井 洋平 赤澤 暢彦	オリエンテーション (トレーニング科学の研究をするための方法論について)				
2	赤澤 暢彦	トレーニング関連の先行研究			関連分野の文献の予習・復習（1時間）	
3	〃	循環機能に関するトレーニング効果の検証方法			関連分野の文献の予習・復習（1時間）	
4	〃	実験データの収集			関連分野の文献の予習・復習（1時間）	
5	〃	実験データの統計解析			関連分野の文献の予習・復習（1時間）	
6	〃	実験データの分析			関連分野の文献の予習・復習（1時間）	
7	〃	分析データのまとめ			関連分野の文献の予習・復習（1時間）	
8	〃	分析データの議論			関連分野の文献の予習・復習（1時間）	
9	高井 洋平	・トレーニング実験を行う際の仮説の立て方			先行研究の緒言の構成を調べておく（1時間）	
10	〃	・トレーニング実験を計画する際の留意点			先行研究の緒言と方法を整理しておく（1時間）	
11	〃	・仮説の検証方法（実験プロトコルなど）			先行研究の方法（実験プロトコル）を調べておく（1時間）	
12	〃	・トレーニング実験のデータ収集と分析			先行研究のデータ取得の手法を調べておく（1時間）	
13	〃	・図表の作成技術			先行研究の図表のレイアウトを調べておく（1時間）	
14	〃	・プレゼンテーション技術			プレゼンテーションに関する注意点を調べておく（1時間）	
15	〃	・パワーポイントの作成			パワーポイントの作成に関する注意点を調べておく（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ生理学特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	堀内 雅弘			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	<p>運動・トレーニングを行ったり、特殊環境に曝露されると、生体における諸生理機能は、合目的に亢進、あるいは抑制され、生体内の恒常性を維持しようと作用する。このような諸機能の応答・適応は、動員された身体部位において局所的に起こるもの、あるいは全身の諸機能が巧みな連携をみせて起こるもの様々である。これらの局所、及び全身の応答・適応のメカニズムを理解することは、効果的に生体機能を改善、向上させる意味でも大きな意味を持つ。本演習では、身体運動時、運動トレーニング、特殊環境などに対する生理応答・適応に関する基礎的情報を教授するとともに、受講生が興味を抱くそれぞれのテーマにそった最新のトピックス、論文などを取り上げ、相互に発表、議論を進めながら、運動・スポーツ生理学に関する幅広い理解と未解明点を明確にする。それにより、自らの専門分野に対する理解を深め、学会等でも通用する発表、議論能力を習得することが期待できる。また、場合によっては全員でテーマを定め、学生主導で実験を行い、その成果を学会等で発表できるようにまとめることとする。【授業に含まれる活動】・・・実施あり、x・・・実施なし、・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり</p> <p>グループワーク()、ディスカッション・討論(○)、プレゼンテーション・発表(○)、フィールドワーク()</p>					
成績評価の方法	<p>学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(60%) レポート等の提出状況(40%) を総合的に評価する。</p>					
成績評価の基準	<p>シラバスに記載されているような特殊環境下における生体応答、トレーニングに対する特異的な生理適応、パフォーマンスに影響する外的要因などについて、幅広く理解していることを評価の基準とし、授業での発表態度・内容、レポートなどから総合的に評価する。 尚、スポーツ生理学、トレーニング科学など関連学会で発表する、あるいは学術誌へ投稿した論文が受諾掲載された場合は、上記のレベルにあるとみなす。</p>					
テキスト、教材 参考書	<p>参考書 運動生理学の基礎と発展(春日規克・竹倉宏明編著、フリースペース、2300円) 運動生理学概論(浅野勝巳編著、杏林書院、2800円) 新運動生理学上・下巻(宮村実晴編、真興交易(株)医書出版部、各13000円) その他随時紹介する予定であるが、論文は基本的には英語論文のみを用いる。</p>					
履修条件・ 関連科目	特にないが、特定のスポーツに関する生理学的応答の授業内容ではなく、より基礎的な生理学の内容であること、および英語能力の向上に相当時間をかける必要があることに留意してください。	備考(教員メッセージ含む)	スポーツ生理学特講と合わせて履修することが望ましい			
オフィス・アワー	あらかじめ連絡をしてもらえれば随時対応。 研究棟3階 303研究室 mhoruichi@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	堀内 雅弘	オリエンテーション(授業の説明と発表内容・順番の確認、あるいは実験テーマ決め)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
2	"	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
3	"	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる。	
4	"	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
5	"	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
6	"	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
7	"	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
8	"	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
9	"	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
10	"	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
11	"	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
12	"	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
13	"	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
14	"	運動への生理的応答 呼吸・循環・体温調節・低酸素適応等についてテーマ(文献を決定しめまとめる)			発表者は次のテーマに関するデータをまとめる(2時間)	
15	"	運動への生理的応答 まとめ			ひとつテーマを定め、レポートにまとめる(3時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体科学論特講演習 (生体ダイナミクス)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	田巻 弘之				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次		-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	本科目では、からだの動きの原理や運動刺激による生体応答メカニズムに関する専門的知識と研究法を備えるため、身体の動きに必要な運動器(骨格筋、骨、神経)の微細構造やはたらきについて、電気力学的に分析評価するとともに、組織染色や顕微鏡観察でイメージングする技法を知る。また文献のデータベース化と実用的な活用法について学ぶ。本授業により、組織・細胞のイメージングや機能構造解析を通して運動器のはたらきを調べることができる。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(25%) 発表状況(%) ルーブリック達成状況(25%)を総合的に評価する。					
成績評価の基準	ルーブリック達成状況、質疑応答状況、課題等の提出等により加点して総合評価する。					
テキスト、教材 参考書	(参考書) 1)計測法入門 計り方,計る意味,内山 靖,協同医書出版社(2001),ISBN:978-4763910301,2)Fatigue, Gandevia SC編集, Plenum Publishing(1995),ISBN:978-0306451393,3)細胞・組織染色の達人,大久保和央(著),羊土社(2018),ISBN:978-4758122375,4)新しい骨形態計測,遠藤直人監修,ウイネット(2014),ISBN:978-4434190803,5)Skeletal muscle damage and repair, Tiidus, PM編集, Human Kinetics(2008),ISBN:978-0736058674,6)神経科学,加藤宏司監訳,西村書店(2007),ISBN:978-4890133567 (資料)適宜配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)				
オフィス・アワー	随時(事前にメールで連絡を頂ければ有難いです) 研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	田巻 弘之	オリエンテーション、生体ダイナミクスの概要、PubMed、EndNoteの使い方	参考書を一読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。(2時間)			
2	"	生体電気信号の記録:その原理と方法と波形の意味を知る	授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)			
3	"	筋電図記録とその応用:疲労やトレーニングの評価に応用する	授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)			
4	"	筋電図記録とその応用:動作分析に応用する、動かしているのか/勝手に動いているのか見極める	授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)			
5	"	骨格筋の収縮機構と張力測定:筋収縮の力学的特性の違いを可視化して、筋力・筋パワーの評価や筋力増強の処方に応用する	授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)			
6	"	骨格筋収縮の機能低下:筋疲労と筋持久力を定量化して、その評価に応用する	授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)			
7	"	筋収縮の力学と電気信号:筋出力と表面筋電図の関係を推察、議論し、プレゼンテーションする	授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)			
8	"	筋組織の微細構造:筋線維と筋膜(結合組織)の種類を分類し、不動や運動による特性の変化を調べる	授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)			
9	"	筋損傷の可視化:生体内での化学的現象を捉える染色法と顕微鏡観察から筋組織のトレーニング効果や萎縮、崩壊の現状を見極める	授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)			
10	"	骨格筋の再生、炎症と神経:筋サテライト細胞やマクロファージ、感覚神経等を可視化/定量化して、再生との関連性を調べる	授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)			
11	"	不動による骨格筋の萎縮と骨組織の脆弱化:運動・物理療法の効果を画像解析で可視化/定量化して、その評価に応用する方法	授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)			
12	"	骨強度の測定:骨の力学的特性を計測し、加齢による折れ方の違いを検証する方法。骨の粘性と弾性に及ぼす因子を探り、これらを改善する体力トレーニング法に応用する	授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)			
13	"	骨組織におけるメカノトランスダクション:運動効果とその評価方法。骨組織への力学的負荷が骨形成を促進するしくみ	授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)			
14	"	骨や骨格筋が分泌する生理活性物質とクロストークの実際:骨のひずみと筋収縮がヒトの健康増進に役立つしくみ	授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)			
15	"	筋骨格系の力学と神経系:骨格筋や骨組織と神経との関連性を力学的、組織細胞学的観点から推察、議論し、プレゼンテーションする	授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。(2時間)			

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体科学論特講演習(身体機能論)		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (ボタツ生命科学)
担当教員名	與谷 謙吾			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	本演習では、身体運動に関わる神経-筋機能の分野を中心に、その評価方法について国外の学術文献の抄読を通して理解を深める。文献の発表および討議を通じて研究動向を把握するとともに、スポーツ科学分野における科学的根拠に基づいた研究遂行能力の基礎を養う。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(50%) 授業への取り組み状況(30%) レポート等の提出状況(20%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	担当する発表の内容、質疑応答、課題等の提出状況を加味して総合評価する。					
テキスト、教材 参考書	資料：適宜配布する。					
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、バイオメカニクスの基礎知識を備えていること。	備考(教員メッセージ含む)	履修に関しては、事前に相談を。			
オフィス・アワー	與谷：随時(事前にメールで連絡を頂ければ有難いです) 研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	與谷 謙吾	オリエンテーション(授業の説明と発表内容・順番の確認)			発表者は次回のプレゼン資料を確認し、まとめる(1時間)	
2	"	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する(2時間)	
3	"	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する(2時間)	
4	"	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する(2時間)	
5	"	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する(2時間)	
6	"	随意運動に伴う神経-筋機能に関する英文抄読の発表会			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する(2時間)	
7	"	運動学習に伴う神経-筋機能の適応に関する英文抄読の発表会			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する(2時間)	
8	"	運動学習に伴う神経-筋機能の適応に関する英文抄読の発表会			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する(2時間)	
9	"	運動学習に伴う神経-筋機能の適応に関する英文抄読の発表会			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する(2時間)	
10	"	運動学習に伴う神経-筋機能の適応に関する英文抄読の発表会			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する(2時間)	
11	"	外部刺激(光)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する(2時間)	
12	"	外部刺激(音)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する(2時間)	
13	"	外部刺激(電気)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する(2時間)	
14	"	外部刺激(磁気)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する(2時間)	
15	"	外部刺激(仮想現実-視覚)に伴う神経系の応答に関する英文抄読の発表会			発表者はパワーポイントを作成し、本演習で得た情報を整理する(2時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	宮崎 輝光				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	ヒトの身体運動を統合的に理解するために、スポーツバイオメカニクス特講で得た知識を基に、研究の推進に必要な研究の立案、方法の選択、解析、研究成果の公表に関する技術を習得する。本授業では、主にバイオメカニクス関連分野に関する国際誌の文献抄読を進め、バイオメカニクス分野の分析方法の理解を進める。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(0%) 授業への取り組み状況(20%) レポート等の提出状況(80%)を総合的に評価する。					
成績評価の基準	文献抄読に関する課題の発表内容、議論への参加、課題などの提出を基に総合的に評価する。					
テキスト、教材 参考書	参考図書(購入する必要はない) スポーツバイオメカニクス20講(阿江通良、藤井範久・朝倉書店) バイオメカニクス 人体運動と力学の制御(David A. Winter(著)、長野明紀(訳)、吉岡伸輔(訳)、ラウンドフラット) バイオメカニクス・ライブラリー 表面筋電図(木塚朝博、増田正、木竜徹、佐渡山亜兵・東京電機大学出版局)					
履修条件・ 関連科目	授業登録前に、事前に宮崎まで連絡すること。 スポーツバイオメカニクス特講と合わせて履修すること。 初回授業時までに各自MathWorksアカウント(スポ情HP参照)を作成し、自身のPCでMATLABを使えるようにすること。	備考(教員メッセージ含む)	動作分析や時系列データの分析に必要な基本的な数学・物理の知識を学習していること(学習済みでない場合は、復習すること)。また、授業までにバイオメカニクス関連分野の文献(国際誌)を抄読していること。演習形式のため、履修人数や受講者の能力に応じて内容は柔軟に対応する。			
オフィス・アワー	随時 408研究室 (t-miyazaki@nifs-k.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	宮崎 輝光	オリエンテーション・バイオメカニクス分野の研究紹介			授業内容に関連する参考書や国内外の文献を調査する(1時間)	
2	"	研究テーマの設定 : バイオメカニクス関連分野の文献調査			授業内容に関連する参考書や国内外の文献を調査する(2時間)	
3	"	研究テーマの設定 : バイオメカニクス関連分野の文献調査			授業内容に関連する参考書や国内外の文献を調査する(2時間)	
4	"	研究テーマの設定 : バイオメカニクス関連分野の文献調査			MATLABを用いたデータ処理、および授業内容に関連する国内外の文献をまとめる(3時間)	
5	"	バイオメカニクス関連分野の分析方法に関する文献抄読			MATLABを用いたデータ処理、および授業内容に関連する国内外の文献をまとめる(3時間)	
6	"	バイオメカニクス関連分野の分析方法に関する文献抄読			MATLABを用いたデータ処理、および授業内容に関連する国内外の文献をまとめる(3時間)	
7	"	バイオメカニクス関連分野の分析方法に関する文献抄読			MATLABを用いたデータ処理、および授業内容に関連する国内外の文献をまとめる(3時間)	
8	"	研究テーマの検討と研究方法の吟味			対象となる研究テーマに関する国内外の文献をまとめる(3時間)	
9	"	研究テーマの検討と研究方法の吟味			対象となる研究テーマに関する国内外の文献をまとめる(3時間)	
10	"	研究テーマの検討と研究方法の吟味			対象となる研究テーマに関する国内外の文献をまとめる(3時間)	
11	"	研究テーマの検討と研究方法の吟味			対象となる研究テーマに関する国内外の文献をまとめる(3時間)	
12	"	研究計画に基づく実験実習とデータ分析			データ処理およびデータを解釈し考察する(3時間)	
13	"	研究計画に基づく実験実習とデータ分析			データ処理およびデータを解釈し考察する(3時間)	
14	"	実験結果のプレゼンテーション			実験結果を国内外の先行研究と照らし合わせて考察する(3時間)	
15	"	実験結果のプレゼンテーション			実験結果を国内外の先行研究と照らし合わせて考察する(3時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ生化学特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	吉田 剛一郎				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	生体における化学的变化をよく理解し、からだの内部における生化学的な知識をより深める。実際には、生化学演習、分子生物学演習をとおして、特講で得られた知識の理解度を深める。最終的に、運動にともなうからだの変化について、生体内代謝に基づく科学的な考察が行えることを目標とする。					
成績評価の方法	授業への取り組み状況(70%) レポート等の提出状況(30%)を総合的に評価する。					
成績評価の基準	演習に取り組む姿勢を重視する。					
テキスト、教材 参考書	入村達郎 訳『ストライヤー生化学』(トッパン) 上代淑人 訳『ハーバー生化学』(丸善)					
履修条件・ 関連科目	とくになし。	備考(教員メッ セージ含む)	必要に応じて論文抄読会を行う。			
オフィス・アワー	随時307研究室・メール。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	吉田 剛一郎	運動生化学特講演習を学ぶための基礎知識			運動生化学特講演習を学ぶための基礎知識を復習する(1時間)。	
2	"	運動と糖質			運動と糖質を復習する(1時間)。	
3	"	運動と脂質			運動と脂質を復習する(1時間)。	
4	"	運動とタンパク質			運動とタンパク質を復習する(1時間)。	
5	"	運動と核酸			運動と核酸を復習する(1時間)。	
6	"	運動と水分出納			運動と水分出納を復習する(1時間)。	
7	"	運動とミネラル			運動とミネラルを復習する(1時間)。	
8	"	運動と血液・尿			運動と血液・尿を復習する(1時間)。	
9	"	運動とホルモン・サイトカイン			運動とホルモン・サイトカインを復習する(1時間)。	
10	"	運動と酵素			運動と酵素を復習する(1時間)。	
11	"	運動とビタミン・補酵素			運動とビタミン・補酵素を復習する(1時間)。	
12	"	運動と糖質代謝			運動と糖質代謝を復習する(1時間)。	
13	"	運動と脂質代謝			運動と脂質代謝を復習する(1時間)。	
14	"	運動とタンパク質代謝			運動とタンパク質代謝を復習する(1時間)。	
15	"	運動と遺伝情報			運動と遺伝情報を復習する(1時間)。	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	石澤 里枝			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツ栄養学に関する基礎的知見および最新の文献に基づき演習や議論を行う。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(70%) レポート等の提出状況(30%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	演習への取り組み、レポートの内容を重視する。					
テキスト、教材 参考書	資料を適宜、配布する。					
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッ セージ含む)	必要に応じて論文抄読やプレゼンテーションを行う。			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	石澤 里枝	糖質摂取後の血糖値の変化			糖質摂取後の血糖値の変化を復習する。(1時間)	
2	"	運動と糖質摂取後の血糖値の変化			運動と糖質摂取後の血糖値の変化を復習する。(1時間)	
3	"	実験結果のプレゼンテーション			実験結果のプレゼンテーションを復習する。(1時間)	
4	"	アスリートのエネルギー必要量の原理			アスリートのエネルギー必要量の原理を復習する。(1時間)	
5	"	消化吸収			消化吸収を復習する。(1時間)	
6	"	グリコーゲンローディング			グリコーゲンローディングを復習する。(1時間)	
7	"	グリコーゲンローディングに関する論文抄読			グリコーゲンローディングに関する論文抄読を復習する。(1時間)	
8	"	筋肥大・筋損傷とアミノ酸摂取			筋肥大・筋損傷とアミノ酸摂取を復習する。(1時間)	
9	"	筋肥大・筋損傷とアミノ酸摂取に関する論文抄読			筋肥大・筋損傷とアミノ酸摂取に関する論文抄読を復習する。(1時間)	
10	"	ファットローディング			ファットローディングを復習する。(1時間)	
11	"	ファットローディングに関する論文抄読			ファットローディングに関する論文抄読を復習する。(1時間)	
12	"	スポーツ栄養の背景や問題点について討論			スポーツ栄養の背景や問題点について復習する。(1時間)	
13	"	運動パフォーマンス向上のための栄養素について討論			運動パフォーマンス向上のための栄養素について討論について復習する。(1時間)	
14	"	運動パフォーマンス向上のための栄養素の効果を検証			運動パフォーマンス向上のための栄養素の効果を検証について復習する。(1時間)	
15	"	測定結果のプレゼンテーション			測定結果のプレゼンテーションを検証について復習する。(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講演習 A		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	坂本 将基・井福 裕俊				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツや運動を身体教育として捉え、かつそれらの分野に関する研究の視点を獲得するためには、スポーツや運動に対する学際的な理解が重要となる。本授業では、随意運動制御、運動時の循環調節などについて概説し、幅広く理解できるようになる。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(40%) レポート等の提出状況(60%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート課題の成績と授業への取り組みから総合的に判断する。					
テキスト、教材 参考書	参考資料等は事前に配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	担当教員ごとに要予約(相談)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	坂本 将基 井福 裕俊	オリエンテーション				
2	坂本 将基	随意運動制御の概説(1) 脊髄			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
3	"	随意運動制御の概説(2) 小脳			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
4	"	随意運動制御の概説(3) 大脳基底核			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
5	"	随意運動制御の概説(4) 骨格筋			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
6	"	随意運動制御の概説(5) 大脳皮質 1			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
7	"	随意運動制御の概説(6) 大脳皮質 2			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
8	"	随意運動制御の概説(7) 運動学習			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
9	井福 裕俊	運動時の循環調節の概説(1) 心臓			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
10	"	運動時の循環調節の概説(2) 血圧			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
11	"	運動時の循環調節の概説(3) 微小循環			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
12	"	運動時の循環調節の概説(4) 圧受容器反射			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
13	"	運動時の循環調節の概説(5) セントラルコマンド			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
14	"	運動時の循環調節の概説(6) 運動昇圧反射			授業内容をまとめて後日提出する(30分)	
15	坂本 将基 井福 裕俊	総合討論				

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特講演習 B	授業形態	講義	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	塩瀬 圭佑			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	本講義では、健康の保持増進およびスポーツパフォーマンス向上のための運動と食事の効果についての著書や研究論文を抄読する。また、運動や食事による代謝機能や身体組成への影響を評価するための基本的な技能について学ぶ。これらから、健康づくりや競技パフォーマンス向上に応用できる知識と技能を身につける。				
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。				
成績評価の基準	食事や運動の効果を検証するためのエネルギー代謝や身体組成評価法を実践できる 健康の保持増進およびスポーツパフォーマンス向上のための食事や運動の効果に関する著書や研究論文を抄読し、内容を理解できている。				
テキスト、教材 参考書	必要に応じて資料を配布・紹介する				
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	適宜指定する				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	塩瀬 圭佑	オリエンテーション	文献の予習・復習(1時間)		
2	"	エネルギー代謝評価の実践	文献の予習・復習(1時間)		
3	"	エネルギー代謝評価の実践	文献の予習・復習(1時間)		
4	"	エネルギー代謝評価の実践	文献の予習・復習(1時間)		
5	"	身体組成評価の実践	文献の予習・復習(1時間)		
6	"	身体組成評価の実践	文献の予習・復習(1時間)		
7	"	運動処方の実践	文献の予習・復習(1時間)		
8	"	運動処方の実践	文献の予習・復習(1時間)		
9	"	エネルギー代謝に関する著書、論文の抄読I	文献の予習・復習(1時間)		
10	"	エネルギー代謝に関する著書、論文の抄読II	文献の予習・復習(1時間)		
11	"	身体組成に関する著書、論文の抄読I	文献の予習・復習(1時間)		
12	"	身体組成に関する著書、論文の抄読	文献の予習・復習(1時間)		
13	"	健康や競技パフォーマンス向上のための運動・食事に関する著書、論文の抄読I	文献の予習・復習(1時間)		
14	"	健康や競技パフォーマンス向上のための運動・食事に関する著書、論文の抄読II	文献の予習・復習(1時間)		
15	"	まとめ	講義全体の復習(1時間)		

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ史・運動文化論特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	中村 勇・森 克己・山田 理恵				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	演習形式で行われる本授業では、スポーツ史研究および近接分野のスポーツ文化人類学的研究に関連する国内外の著名な文献を購読し、問題の設定、資料収集と吟味、現地調査、叙述の進め方など、スポーツ史研究の方法と、近接分野の研究手法の援用方法を修得する。それらによって、スポーツの歴史学的研究、運動文化論的研究の方法論および専門的知識を身につけることができる。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(70%) レポート等の提出状況(30%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	随時課す課題および発表の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参考書	参考書：『成田文庫』記念論集刊行会(編)『スポーツ文化研究のシナジー 体育・スポーツの新たなステージへの展望』(不昧堂出版、2025年) その他の参考書は、適宜紹介する。資料は、適宜配付する。					
履修条件・ 関連科目	スポーツ人文学特講と併せて受講することが望ましい。		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	中村：水曜日11：00-12：30 山田・森：教務課教育企画係を通して調整					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中村 勇	スポーツ史・運動文化論の導入			授業の学びについて復習(30分以上)	
2	"	武道史・武道文化論に関する学術資料の購読・討論			授業の学びについて復習(30分以上)	
3	"	武道史・武道文化論に関する学術資料の購読・討論			授業の課題について予習・復習(30分以上)	
4	"	武道史・武道文化論に関する研究発表			授業の課題について予習・復習(30分以上)	
5	森 克己	スポーツの法と倫理(総論)			授業の課題について予習・復習(30分以上)	
6	"	日本におけるスポーツの法と倫理			授業の課題について予習・復習(30分以上)	
7	"	日本におけるスポーツの法と倫理			授業の課題について予習・復習(30分以上)	
8	"	イギリスにおけるスポーツの法と倫理			授業の課題について予習・復習(30分以上)	
9	"	イギリスにおけるスポーツの法と倫理			授業の課題について予習・復習(30分以上)	
10	山田 理恵	文献・史料の調査・収集			授業の課題について予習・復習(30分以上)	
11	"	史料の吟味と叙述の進め方			授業の課題について予習・復習(30分以上)	
12	"	現地調査と資料収集			授業の課題について予習・復習(30分以上)	
13	"	現地調査と資料収集			授業の課題について予習・復習(30分以上)	
14	"	研究実践のプレゼンテーション			授業の課題について予習・復習(30分以上)	
15	中村 勇 森 克己 山田 理恵	総括			授業の課題について予習・復習(30分以上)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ法・倫理特講演習	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	森 克己			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	この演習では、スポーツにおける法的・倫理的問題であるスポーツ指導者による子どもへの体罰・虐待問題について取り上げ、日本における体罰の判例研究、英語文献の講読により考察する。				
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。				
成績評価の基準	授業での発表状況、毎回の授業時に課されるレポートの取組状況を総合的に評価する。				
テキスト、教材 参考書	参考書:(1)Paulo David., Human Rights in Youth Sport: A critical review of children's rights in competitive sports, Routledge, 2005 (2)UNICEF, PROTECTING CHILDREN FROM VIOLENCE IN SPORT - A REVIEW WITH A FOCUS ON INDUSTRIALIZED COUNTRIES, 2010				
履修条件・ 関連科目	スポーツ指導者による体罰・虐待問題に関心があり、英語文献を講読するための英語力を備えていることが望まれます。	備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー					
授業計画					
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	森 克己	全体のオリエンテーション: 演習の進め方、評価の仕方など	履修要項・シラバスの予習(10分以上)		
2	"	体罰の判例研究	体罰に関する判例の資料の予習(30分以上)		
3	"	体罰の判例研究	体罰に関する判例の資料の予習・復習(30分以上)		
4	"	体罰の判例研究	体罰に関する判例の資料の予習・復習(30分以上)		
5	"	体罰の判例研究	体罰に関する判例の資料の予習・復習(30分以上)		
6	"	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読	Paulo Davidの本の予習(30分以上)		
7	"	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読	Paulo Davidの本の予習(30分以上)		
8	"	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読	Paulo Davidの本の予習(30分以上)		
9	"	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読	Paulo Davidの本の予習(30分以上)		
10	"	競争的スポーツにおける子どもの人権に関する文献の講読	Paulo Davidの本の予習(30分以上)		
11	"	ユニセフ報告書の講読	ユニセフ報告書の予習(30分以上)		
12	"	ユニセフ報告書の講読	ユニセフ報告書の予習・復習(30分以上)		
13	"	ユニセフ報告書の講読	ユニセフ報告書の予習・復習(30分以上)		
14	"	ユニセフ報告書の講読	ユニセフ報告書の予習・復習(30分以上)		
15	"	ユニセフ報告書の講読	ユニセフ報告書の予習・復習(30分以上)		

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	北村 尚浩・大勝 志津穂				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	生涯スポーツについての研究方法論について総合的に考究する。具体的には、生涯スポーツに関することについての研究論文・文献の抄読発表会を行い、今後の生涯スポーツ振興政策や健康づくりに関した研究法の習得を目標とする。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(70%) レポート等の提出状況(30%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業時の課題発表とレポートを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	授業時配布の各種資料					
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)				
オフィス・アワー	北村：610研究室 (要アポイントメント)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	生涯スポーツ政策・クラブ・スポーツ行動・マネジメントに関する論文・文献紹介 (1)			シラバスによる予習(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
2	"	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
3	"	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
4	"	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
5	"	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
6	"	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
7	"	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
8	"	生涯スポーツ政策・クラブ・スポーツ行動・マネジメントに関する論文・文献紹介 (2)			課題による準備(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
9	大勝 志津穂	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
10	"	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
11	"	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
12	"	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
13	"	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
14	"	論文文献抄読会で発表演習を実施			課題による準備(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
15	北村 尚浩 大勝 志津穂	まとめ・定期レポート作成			課題による準備(1時間) 講義内容の復習(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	北村 尚浩・日下 知明				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	1		受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	スポーツ社会学研究法について、これまでの研究成果について概観し、特に、調査研究と文献的研究法の諸外国や日本の研究課題と展望を考究する。社会的な研究法の基礎を学ぶとともに、その研究法の現状と課題を習得する。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(40%) レポート等の提出状況(60%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参考書	随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	北村：610研究室(要アポイントメント) 日下：607研究室(事前にメールしてください。宛先はt-kusaka@nifs-k.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	北村 尚浩	スポーツ社会学的研究の必要性			文献抄読(1時間)	
2	"	スポーツ行動研究			文献抄読(1時間)	
3	"	スポーツ集団研究			文献抄読(1時間)	
4	"	ライフスタイル研究			文献抄読(1時間)	
5	"	QOL研究			文献抄読(1時間)	
6	"	Aging研究			文献抄読(1時間)	
7	"	プレゼンテーション			発表準備(1時間以上)	
8	"	文献資料研究の方法と課題			文献抄読(1時間)	
9	日下 知明	スポーツとメディア			文献抄読(1時間)	
10	"	スポーツとナショナリズム			文献抄読(1時間)	
11	"	スポーツ政策			文献抄読(1時間)	
12	"	スポーツイベントと都市開発			文献抄読(1時間)	
13	"	スポーツと教育			文献抄読(1時間)	
14	"	障害者スポーツ			文献抄読(1時間)	
15	"	スポーツと環境			文献抄読(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ経営学特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	棟田 雅也・隅野 美砂輝・関 朋昭				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツマネジメント論特講等で学習した理論や内容を基礎に、スポーツ経営やマーケティングに関する実践的な事例を扱う。実際のスポーツ経営関係の研究テーマ・内容・方法を含めた現代のスポーツ経営の課題発見、また消費行動から戦略を含めたマーケティング事例の研究を行う。また、スポーツに関する事象を行動学、経済学、経営哲学における様々な理論や分析方法を使って解明していく。授業を通してスポーツ経営に関する研究課題を見付け出し、調査・研究方法を实践し、一つの課題に関する研究方法を習得する。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 授業への取り組み状況(80%) レポート等の提出状況(20%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表なども入れて総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	その都度指示する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	関：604教員室 隅野：501教員室 棟田：602教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	棟田 雅也	オリエンテーション			予習1時間、復習1時間	
2	"	スポーツまちづくりに関する書籍の輪読1			予習1時間、復習1時間	
3	"	スポーツまちづくりに関する書籍の輪読2			予習1時間、復習1時間	
4	"	スポーツまちづくりに関する書籍の輪読3			予習1時間、復習1時間	
5	"	スポーツまちづくりに関する書籍の輪読4			予習1時間、復習1時間	
6	関 朋昭	知識経営に関する演習1			予習1時間、復習1時間	
7	"	知識経営に関する演習2			予習1時間、復習1時間	
8	"	意思決定に関する演習1			予習1時間、復習1時間	
9	"	意思決定に関する演習2			予習1時間、復習1時間	
10	"	人的資源を活用した演習1			予習1時間、復習1時間	
11	"	人的資源を活用した演習2			予習1時間、復習1時間	
12	"	スポーツの価値に関する演習1			予習1時間、復習1時間	
13	"	スポーツの価値に関する演習2			予習1時間、復習1時間	
14	"	スポーツの原理に関する演習1			予習1時間、復習1時間	
15	"	スポーツの原理に関する演習2			予習1時間、復習1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	基礎科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	森 司朗・中本 浩揮・幾留 沙智				補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	研究を通して得られるものにはデータを測定する科学的手法のほか、データに基づき自分自身の意見・主張を形成し、わかりやすく表現するスキルが挙げられる。本授業では、受講生各自が進める研究内容を題材に、最も大事な点は何か、聴き手が知りたいことは何かなどを整理し、意見・主張とその元となる根拠を適切な順序で伝えるなど、思考のパラグラフ化の練習課題を中心に行う。授業の達成目標は、思考のパラグラフ化を身に付け、自身の研究内容を他者に魅力的に伝えられるようになること、また他者の研究内容を同様の視点で聞き、問題点や疑問点を指摘できるようになることとする。					
成績評価の方法	授業への主体性・取り組み状況(50%)、課題達成状況(50%)を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組みとして、質問への応答、課題への積極的な取り組み、討議への積極的な参加を重視する。					
テキスト、教材 参考書	テキスト：研究的思考法 想いを伝える技術 三輪書店					
履修条件・ 関連科目	スポーツ心理学特講	備考(教員メッ セージ含む)	授業時間外の課題実施がある。			
オフィス・アワー	随時だが、まずはメールにて問合せをすることが望ましい。 森司朗 (moris@nifs-k.ac.jp) 中本浩揮 (nakamoto@nifs-k.ac.jp) 幾留沙智 (ikudome@nifs-k.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗 中本 浩揮 幾留 沙智	オリエンテーション(授業方針, 取り扱う内容の説明)			前期トレーニング科学論特講の講義内容について復習(30分)	
2	"	研究の想いを明確にする			授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
3	"	研究の仮説を明確にする			授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
4	"	研究の目的を説明する際の「解説」の重要性を理解する			授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
5	"	研究の目的と解説を作成する			授業で作成した内容を整理し、次週に向けての発表準備(1時間)	
6	"	発表&ディスカッション(目的と解説)			ディスカッションを受け、目的と解説の修正(1時間)	
7	"	数値がもつ意味の解説の重要性を理解する			授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
8	"	結果(数値)とその意味の解説を作成する			授業で作成した内容を整理し、次週に向けての発表準備(1時間)	
9	"	発表&ディスカッション(結果とその意味)			ディスカッションを受け、結果とその意味の修正(1時間)	
10	"	大事な意見を先に伝えることの幅を理解する			授業内容で配布したスライドをもとに復習(1時間)	
11	"	先行研究の要旨を「大事な意見を先に伝える」の視点で添削する			授業で行った添削を整理し、次週に向けての発表準備(1時間)	
12	"	発表&ディスカッション(先行研究の要旨添削)			ディスカッションを受け、添削の修正(1時間)	
13	"	先行研究の序論を添削する			授業で行った添削作業を進める(1時間)	
14	"	先行研究の序論を添削する			授業で行った添削を完成させ、次週に向けての発表準備(1時間)	
15	"	発表&ディスカッション(先行研究の序論添削)			ディスカッションを受け、添削の修正、授業で身に付けた内容の振り返り(1時間)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ教育学特講演習	授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	梶 ちか子			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	<p>本演習では、「スポーツ教育学特講」で学んだ理論的知見を踏まえ、学校体育に関する文献講読、授業分析、単元開発、教材開発、および小規模な教育実践研究の構想・実施へと発展させる。特に、デザイン研究の考え方を基盤に、授業上の課題の把握、改善案の作成、試行、省察という循環を重視し、論文作成につながる研究基盤を形成する。</p> <p>【授業に含まれる活動】 ・・実施あり、×××実施なし、・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク()、ディスカッション・討論()、プレゼンテーション・発表()、 フィールドワーク()</p>				
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(50%) レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。				
成績評価の基準	各回の文献講読、発表、討議において、自身の問題意識をもって議論に参加しているかを評価する。また、授業分析課題、単元・教材案、研究計画書、中間発表、最終成果物の完成度を総合的に評価する。				
テキスト、教材 参考書	授業時に指定する文献・資料を用いる。必要に応じて、国内外の体育科教育学・スポーツ教育学関連論文、実践研究論文、デザイン研究論文を講読する。				
履修条件・ 関連科目	「スポーツ教育学特講」を履修済み、または同等の知識を有すること。自身の論文作成との接続を意識して履修すること。	備考(教員メッセージ含む)	演習では受講者各自の研究テーマに応じて内容を調整する。発表・討議中心の授業であるため、事前準備を前提とする。		
オフィス・アワー	授業前後およびメールによる事前連絡の上、随時対応する(703研究室)。				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	梶 ちか子	ガイダンス：演習の目的と研究テーマの共有	自身の研究テーマと問題意識の整理(120分)		
2	"	先行研究の探索と整理方法	関連論文5本以上を収集し、概要表を作成(120分)		
3	"	文献講読：学校体育研究の理論枠組み	担当文献のレジュメを作成(120分)		
4	"	文献講読：授業研究・学習評価研究	比較検討メモを作成(120分)		
5	"	文献講読：デザイン研究・教育実践研究	自テーマとの接点の整理(120分)		
6	"	授業観察・授業記録・授業分析の方法	分析対象授業の観察項目案を作成(120分)		
7	"	学習課題・教材・発問の設計	単元の中核課題案を作成(120分)		
8	"	単元計画の作成と改善	単元計画案の作成(120分)		
9	"	評価規準・評価方法・ルーブリックの作成	評価規準案と評価資料案を作成(120分)		
10	"	子どもの学びの見取りとデータ収集	観察記録・ワークシート・インタビュー等の収集計画の立案(120分)		
11	"	研究倫理と学校現場での実践研究	研究倫理上の留意点を整理(120分)		
12	"	研究計画発表	他者からのコメントを踏まえて計画を修正(120分)		
13	"	研究計画発表	研究目的・方法・分析計画を再整理(120分)		
14	"	成果物作成：単元開発報告または研究計画書の完成	最終成果物の完成(120分)		
15	"	総括：修士論文への展開	最終レポート提出(120分)		

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ情報学特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	和田 智仁			補助担当者名		
単位数	2 単位	履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	本演習では、「スポーツ情報学特講」で扱った理論的知見を踏まえ、スポーツに関する各種データの収集、整理、可視化、分析の基礎を実践的に学ぶ。競技力向上を目的とした、コンディショニング、戦術分析、指導支援等に関わる具体的課題を対象として、データに基づく課題の把握と解決に向けた演習を実施する。また、分析結果を適切に解釈し、他者に伝達する力を養うとともに、データ活用に伴う倫理的・社会的課題についても理解を深める。					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(%) 授業への取り組み状況(40%) レポート等の提出状況(60%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業で行うディスカッションへの参加状況、演習内容、授業時に提示する課題の実施状況、理解度などから総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	『コーチングのためのバイオメカニクス関連機器の活用ガイドライン - 位置とスピードの計測器を中心に - 』, ハイパフォーマンススポーツセンター / 国立スポーツ科学センター, https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/Portals/1/resources/hpsc/guidebook/bio-guideline-r.pdf					
履修条件・ 関連科目	スポーツ情報学特講を履修していること。	備考(教員メッ セージ含む)	MATLABまたはPythonプログラミングを行います。			
オフィス・アワー	事前にメールで予約をお願いします					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	和田 智仁	ガイダンス：演習の目的と進め方			参考資料を読む(2時間)	
2	"	スポーツデータの種類と取得方法			各自で携わるスポーツにおけるデータ収集を行う(2時間)	
3	"	データ整理の基礎			各自で携わるスポーツにおけるデータの整理を行う(2時間)	
4	"	データ整理の基礎 プログラミング演習			プログラミングの予習を行う(2時間)	
5	"	データ整理の基礎 データの可視化			可視化の演習を行う(2時間)	
6	"	競技成績データの分析			プロスポーツにおけるデータ収集を行う(2時間)	
7	"	競技成績データの分析			データの分析を行う(2時間)	
8	"	競技成績データの分析			データの分析を行う(2時間)	
9	"	コンディショニング・傷害予防データの活用			コンディショニングデータの収集を行う(2時間)	
10	"	コンディショニング・傷害予防データの活用			コンディショニングデータの分析を行う(2時間)	
11	"	データ分析実践			自由課題の準備を行う(2時間)	
12	"	データ分析結果の解釈と改善の提案			課題演習を行う(2時間)	
13	"	分析結果プレゼンテーション			プレゼンテーションの準備を行う(2時間)	
14	"	分析結果プレゼンテーション			自身のプレゼンテーションを振り返り、他者評価をまとめる(2時間)	
15	"	授業のまとめ			演習の総括レポートを作成する(2時間)	